

報告資料 2

令和4年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 スケジュール

- | | |
|--------|------------------------|
| 4月 | 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表 |
| 7月～9月 | 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告 |
| 11月 | 児童・生徒、保護者アンケートの実施 |
| 12月～1月 | 自己評価（年度末）の実施 |
| 2月～3月 | 学校関係者評価の実施 |
| 3月 | 指導課への評価結果の提出 |

3 各学校の評価結果

別紙による

4 評価結果を受けて

- ・取組指標と成果指標は同じ評価であった学校が全体の53%（前年比+7%）であった。取組指標が成果指標より上回る学校が31%（前年比-2%）であり、取組指標が成果指標より下回る学校が16%（-4%）であった。感染対策の工夫を行いながらの教育活動実施であったため、食育に関する取組や話し合い活動、異学年交流や小中連携などにおいて、コロナ禍以前の実施が困難であり、成果に結び付いていない項目も見られた。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校で取り組むべき課題について貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

| | | | | | | | | | |
|--------|----------------------------------|------|-------------|---|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校 | | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができ子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供 | | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | ○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心をもち、指導力向上に努める教師 ○公務員としての自覚をもち、信頼される教師 | | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|------------------------------------|--|---------------------------|----|-------------------------------------|----|--|---|----|--|
| 確かな学力 | 学ぶ楽しさを実感させることのできる授業改善の推進、日常的な指導の実践 | 基礎的・基本的な内容の確実な定着 | ○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○朝学習、家庭学習の充実 | 4 4項目全て取り組むことができた | 3 | 4 90%以上の児童が授業を工夫していると回答 | 4 | タブレット端末を積極的に活用(プログラミング・スライド・デジタルホワイトボード等)した。指導と評価の一體化を図り、毎時間の振り返りを行った。下位層への学力定着ができていなかった。 | 児童がタブレット端末を十分に使いこなせているように思われた。授業でタブレット端末が有効に活用されている。各学級で工夫のある授業がされている。個々の学習能力を向上させてほしい。 | B | 支援員や外部講師を活用する。タブレット端末の効果的な活用場面を考えて授業の中で使用する。支援が必要な児童には個別の対応をしていく。学力調査の分析を丁寧に行い授業に生かす。児童の実態や特性に合わせた指導を行う。 |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | | 3 80%~90%未満の児童が授業を工夫していると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた | | 2 70%~80%未満の児童が授業を工夫していると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目は取り組むことができた | | 1 70%未満の児童が授業を工夫していると回答 | | | | | |
| | | 読書に関する指導や、読書の習慣化の取組を日常化し、読書活動の充実 | ○朝読書の質の向上 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○定期的な意識調査の実施 | 4 4項目全て取り組むことができた | 3 | 4 95%以上の児童が3~4時間以上の読書をしていると回答 | 1 | 週3回朝読書の基準を確保した。隙間時間を利用して読書の時間を多く取り入れた学級独自の読書マラソンカードを作成して活用した。タブレット端末の使用により読書時間が減っているのが残念に感じる。朝読書の時間は確保できたが工夫が足りなかった。 | 読書に関するポスター等が整理され、廊下に貼り出されているが、児童たちの読書時間が減っているのが残念に感じる。定期的な重点課題として図書館利用率を上げる工夫が必要である。 | C | テスト後の時間は読書するなど読書を取り組む時間を十分確保する。読書週間を2週間に延ばす。家庭での読書への取組を促す。学級文庫の充実を図る。日常的に読書カード等を活用する。学級での読み聞かせ、お薦め本の紹介をする。 |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | | 3 85%~90%未満の児童が3~4時間以上の読書をしていると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた | | 2 80%~85%未満の児童が3~4時間以上の読書をしていると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目は取り組むことができた | | 1 80%未満の児童が3~4時間以上の読書をしていると回答 | | | | | |
| | | 多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進 | ○校内委員会の充実 ○大空教員との共同実践 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○障害理解の推進(研修) | 4 4項目全て取り組むことができた | 3 | 4 90%以上の児童が授業が分かると回答 | 4 | 担任・特別支援教室担当・保護者で相談し、指導・支援を行った。ユニバーサルデザインを意識した環境づくりを行った。授業内容が分かやすくなるように視覚化した。特別支援教室の教員との関わりが少なかった。 | 児童たちの障害への理解を大いに推進してほしい。児童たちのコミュニケーション能力を高めてほしい。 | A | 全員が参加・理解できる授業を行う。特別支援教室の教員と連携した授業づくりを行なう。校内委員会等での共通理解を深め学校全体で指導にあたるようする。特別支援教育コーディネーターとの連携を密にする。 |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | | 3 80%~90%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた | | 2 70%~80%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目は取り組むことができた | | 1 70%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| 豊かな心 | 自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わりながら、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践 | 道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実 | ○教職員同士による授業観察 ○価値項目を明確にし、児童の変容を見取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施 | 4 4項目全て取り組むことができた | 2 | 4 90%以上の児童が大切にしていると回答 | 4 | 授業の年間の見通しが不十分だった。教員同士で授業を見直し、見合せた機会をもてなかつた。ワークシートを用いて、児童の変容を見取つた。 | 教員同士で話し合いを等をもたらす。各々の授業に工夫をされていなかった。見受けられた。道徳の学習を通して人間関係への取り組みをしてほしい。 | B | 互いに授業を見合す時間を計画的に設定する。ワークシート以外で児童の変容を見取る方法を実践する。 |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | | 3 85%~90%未満の児童が大切にしていると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた | | 2 80~85%未満の児童が大切にしていると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目は取り組むことができた | | 1 80%未満の児童が大切にしていると回答 | | | | | |
| | | いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現 | ○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校の実現 | 4 アンケート実施後の個別対応100% | 4 | 4 不登校(傾向を含む)人数0人 | 3 | 経過観察が多いため、日々の指導がさらに必要だった。日頃から一人一人とのコミュニケーションを大切にし、いじめ・不登校の早期発見・防止に努めた。アンケート結果を基に聞き取り、指導を行なった。児童への聞き取りが不十分な部分があった。 | 不登校0に向けて努力してほしい。いじめ防止にすぐに対応してくれていると思う。 | B | 他の教員・保護者との連携を密にし、組織として対応する。日頃から児童の様子を丁寧に観察し、小さな変化も見落とさないように努める。 |
| | | | | 3 アンケート実施後の個別対応95% | | 3 1人 | | | | | |
| | | | | 2 アンケート実施後の個別対応90% | | 2 2人 | | | | | |
| | | | | 1 アンケート実施後の個別対応85% | | 1 3人 | | | | | |
| 健やかな体 | 様々な運動を体験させ、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進 | 学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励 | ○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備 | 4 毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 | 3 | 4 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりと回答 | 2 | 休み時間毎日遊ぶことができた。児童の様子を見るとともに一緒に遊んだ。子供の見守りはできただが一緒に遊べなかつた。声をかけないと外に出ない児童が多い。 | 休み時間を利用してドッジボール投げを取り入れてみた。遊び感覚を取り入れた授業を行なつてほしい。休み時間が短いと思う。 | C | 休み時間の外遊びを推進する。運動委員での遊びを密にし、組織として対応する。日頃から児童の様子を丁寧に観察し、小さな変化も見落とさないように努める。 |
| | | | | 3 2回 | | 3 80%~90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答 | | | | | |
| | | | | 2 1回 | | 2 70%~80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答 | | | | | |
| | | | | 1 0回 | | 1 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりと回答 | | | | | |
| | | 年間を通した体力向上への取組(「元気アップガイドブック」等の活用) | ○「元気アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」の取組 ○運動の特性を生かす体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組 | 4 4項目全て取り組むことができた | 2 | 4 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答 | 1 | 学年で連携し、体育授業の改善に努めた。「グッドモーニング60分」の事後の取り組みができていなかった。体力テストの結果の共有が十分ではなかった。体力向上に関する取り組みが十分にできなかつた。 | 全国的に東小でもソフトボール投げが低調な傾向にあるので、工夫をして向上を目指してほしい。 | C | 体力テストの結果を共有し、投げの運動に関する取り組みを実施する。なわとびカーデを基に学校全体で体力向上に取り組む。日々の授業で「元気アップガイドブック」を活用していく。「グッドモーニング60分」の事後の取組を考えていく。 |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | | 3 80%~90%未満の家庭が体力向上に満足と回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた | | 2 70%~80%未満の家庭が体力向上に満足と回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目は取り組むことができた | | 1 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答 | | | | | |
| 輝く未来 | 人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指し、自他の大きさを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生きていく力を培う。 | 食育の充実 | ○ランチルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進 | 4 年間で食育に関する授業の実施3回以上 | 2 | 4 年間の残菜率3.3% | 1 | 食育と教科を関連付けて指導できた。家庭科と給食を関連付けて学習を行なった。栄養教諭との連携が少なかつた。 | 食の楽しさを感じるような工夫をしてほしい。 | B | 栄養教諭と打ち合わせを密にして、計画的に食育を連携して進める。食育と教科を関連付けて授業を行う。 |
| | | | | 3 2回 | | 3 年間の残菜率3.5% | | | | | |
| | | | | 2 1回 | | 2 年間の残菜率3.7% | | | | | |
| | | | | 1 0回 | | | | | | | |

令和4年度

昭島市立共成小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

| | | | | |
|--------|---------------------------------|---------------------|---|----------------------------|
| 学校教育目標 | ○助け合う子 ○考える子【重点目標】 ○きたえる子 | 【目指す学校像】 | ○児童が、「学びがい」「やさしさ」「元気」を感じる学校 | ○児童が、「自分らしさ」を發揮し、力強く前に進む学校 |
| | | ビジョン 【目指す児童・生徒像】 | ○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自他を大切にし、共に伸びようとする子ども ○心と体に心を開く、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども | |
| | | 【目指す教師像】 | ○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師 | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|---|---|--|--|----|--|---------------------------------|--|---|---|---|
| 確かな学力 | 児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。 | すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。 | 「振り返り」の視点を示して、時間を確保し、児童が変容を実感できる授業を展開する。 | 4 「振り返りの充実…90%以上 3 「振り返りの充実…80～90% 2 「振り返りの充実…70～80% 1 「振り返りの充実…70%未満 | 3 | 4 「毎日「できた・分かった」と思えた…90%以上 3 「毎日「できた・分かった」と思えた…80～90% 2 「毎日「できた・分かった」と思えた…70～80% 1 「毎日「できた・分かった」と思えた…70%未満 | 4 | 授業における振り返りは定着し、児童の変容を描むのにも、児童自身の習得の実感にもつながっている。 | 学習したことをタブレットで再現できると、より復習の楽しさにつながると思う。 | A | タブレットを使った振り返りやポートフォリオ化など新たな形も見られる。効果的な方法を校内で共有していく。 |
| | | 児童が自分の思いや考えを言葉で表現し、すくんで伝え合う態度を育む。 | タブレットなどICTを効果的・効率的に活用し、個に応じた指導を充実させる。 | 4 「ICTを活用し、個に応じた指導ができた…90%以上 3 「ICTを活用し、個に応じた指導ができた…80～90% 2 「ICTを活用し、個に応じた指導ができた…70～80% 1 「ICTを活用し、個に応じた指導ができた…70%未満 | 3 | 4 「授業が分かりやすい…90%以上 3 「授業が分かりやすい…80～90% 2 「授業が分かりやすい…70～80% 1 「授業が分かりやすい…70%未満 | 4 | 児童がツールの一つとして、自動的・主体的にICTの活用する場面が増えてきたのが大きな成果である。 | 活用の成果が自信につながり、学んだことに喜びを感じている様子が伺える。 | A | 教員間で情報共有しながら個別最適化された活用方法とその効果について検証・実践していく。 |
| 豊かな心 | 児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。 | 児童が自分の心と体の健康に心を開く、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。 | 児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。 | 4 「伝え合う場を日常的に設定した…90%以上 3 「伝え合う場を日常的に設定した…80～90% 2 「伝え合う場を日常的に設定した…70～80% 1 「伝え合う場を日常的に設定した…70%未満 | 4 | 4 「自分の考えを伝え合うことが好き…90%以上 3 「自分の考えを伝え合うことが好き…80～90% 2 「自分の考えを伝え合うことが好き…70～80% 1 「自分の考えを伝え合うことが好き…70%未満 | 3 | 教員は、場面や方法を工夫しながら、児童が思いや考えを伝え合う場を設定しているが苦手意識をもつ児童も多い。 | 苦手意識をもつ子供たちの表現力を高めさせていただきたい。 | A | 自由な手段で児童が自分の考えを表すことができるよう選択肢を与えられるような学習展開を開拓していく。 |
| | | 「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得る認識し、未然防止と早期対応に努める。 | 児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。 | 4 「日常的に情報共有を行った…90%以上 3 「日常的に情報共有を行った…80～90% 2 「日常的に情報共有を行った…70～80% 1 「日常的に情報共有を行った…70%未満 | 4 | 4 「あいさつ・返事」ができる…90%以上 3 「あいさつ・返事」ができる…80～90% 2 「あいさつ・返事」ができる…70～80% 1 「あいさつ・返事」ができる…70%未満 | 3 | 教員があいさつ・返事の大切さを理解し、しっかりと指導に取り組み、効果があつた。 | いつ学校へ来ても、元気なあいさつが返ってくる。すばらしい取組である。 | A | 地域・家庭と連携したあいさつの取組を通して、安心・安全な環境づくりを推進していく。 |
| 健やかな体 | 児童が自分の心と体の健康に心を開く、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。 | 児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。 | 児童の体力向上週間や授業で児童の課題に沿った運動に取り組み、体力調査結果を上げる。 | 4 「児童の課題に沿った運動に取り組ませた…90%以上 3 「児童の課題に沿った運動に取り組ませた…80～90% 2 「児童の課題に沿った運動に取り組ませた…70～80% 1 「児童の課題に沿った運動に取り組ませた…70%未満 | 2 | 4 「自分も相手も大切にできる…90%以上 3 「自分も相手も大切にできる…80～90% 2 「自分も相手も大切にできる…70～80% 1 「自分も相手も大切にできる…70%未満 | 4 | 範囲割り活動の復活により、他学年との交流も生まれ、より広く、深く「やさしい言葉」をかわせる場面が増えってきた。 | 子供たちが、学年を越えた交流で、いろいろな活動を楽しんでいる様子が伺える。 | A | 引き続き、児童同士の言葉遣いや温かい言葉かけなどの取組を続ける。また、上の学年がモデルとなる活動も増やす。 |
| | | 全ての児童が、困ったときに相談でき、安心して生活できるよう、心の安定を図る。 | SOSの出し方や心のもち方にについての学習を継続し、相談できる体制・人間関係をつくる。 | 4 「心のもち方を指導し、教師から声をかけた…90%以上 3 「心のもち方を指導し、教師から声をかけた…80～90% 2 「心のもち方を指導し、教師から声をかけた…70～80% 1 「心のもち方を指導し、教師から声をかけた…70%未満 | 4 | 4 「社会通念上のいじめの発生件数…0件 3 「社会通念上のいじめの発生件数…1～5件 2 「社会通念上のいじめの発生件数…6～10件 1 「社会通念上のいじめの発生件数…11件以上 | 2 | 児童が相談できる窓口を広げてきたため、担任以外から多くの相談案件を捉えることができるようになった。 | 安心して学校生活を送れるように、ぜひ適切な早期対応をお願いしたい。 | B | SCやSSW、外部機関とも連携し、組織的対応を迅速にしていく。誰にでも相談できる学校を目指す。 |
| 輝く未来 | 多くの人と、かかわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己的よさを実感し、自信をもって、自分らしさを發揮できる教育活動を推進する。 | 集団の中で、自分でのきることを自己判断・自己決定し、行動する力を育む。 | 特別活動の充実を図り、児童が主体的に活動する場を設定する。 | 4 「児童が主体的に活動する場を設定した…90%以上 3 「児童が主体的に活動する場を設定した…80～90% 2 「児童が主体的に活動する場を設定した…70～80% 1 「児童が主体的に活動する場を設定した…70%未満 | 3 | 4 「児童のよさを理解している…90%以上 3 「児童のよさを理解している…80～90% 2 「児童のよさを理解している…70～80% 1 「児童のよさを理解している…70%未満 | 3 | 運動が楽しいと感じる児童は増えているが、体力調査の数値が低く、危機感をもつっている教員が多い。 | 体を動かすときも声が出ると、より大きな運動量になっていく。今後の成果に期待する。 | A | 独自の効果検証など、学校として課題意識をもちながら体力向上への取組を継続している。 |
| | | 児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感、自己有用感を育む。 | 「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。 | 4 「児童同士が認め合う活動に取り組んだ…90%以上 3 「児童同士が認め合う活動に取り組んだ…80～90% 2 「児童同士が認め合う活動に取り組んだ…70～80% 1 「児童同士が認め合う活動に取り組んだ…70%未満 | 3 | 4 「児童のよさを理解している…90%以上 3 「児童のよさを理解している…80～90% 2 「児童のよさを理解している…70～80% 1 「児童のよさを理解している…70%未満 | 2 | 規則正しい生活習慣を意識している…90%以上 規則正しい生活習慣を意識している…80～90% 規則正しい生活習慣を意識している…70～80% 規則正しい生活習慣を意識している…70%未満 | 元気アップガイドブックを有効に指導に役立てることができ、児童への意識づけも不十分であった。 | この3年間はみんなが運動不足を実感している。繰り返し家庭への働きかけも重視してほしい。 | B |
| | | 児童が、安心して「自分らしさ」を発揮できる温かい集団作りを目指す。 | 年2回のQUを活用し、学級や児童個々の状況に応じた指導を展開する。 | 4 「望ましい集団作りを図る取組を行った…90%以上 3 「望ましい集団作りを図る取組を行った…80～90% 2 「望ましい集団作りを図る取組を行った…70～80% 1 「望ましい集団作りを図る取組を行った…70%未満 | 3 | 4 「学校生活が楽しいと感じている…90%以上 3 「学校生活が楽しいと感じている…80～90% 2 「学校生活が楽しいと感じている…70～80% 1 「学校生活が楽しいと感じている…70%未満 | 4 | 日常の指導や特別の教科道徳においても援助を求める方法について学んでいる。5・6年生では「心の教室」を実施した。 | 子供が自信をもって安心して相談できる空気が広がっていると思う。 | A | 徳育や特別活動の取組を充実させ、児童の自己肯定感を高め自分も他者も大切にする心情を高める。 |
| | | | | 4 「児童や行事で自分で考えて行動できた…90%以上 3 「児童や行事で自分で考えて行動できた…80～90% 2 「児童や行事で自分で考えて行動できた…70～80% 1 「児童や行事で自分で考えて行動できた…70%未満 | 3 | 4 「学級や行事委員会、縦割り班の「かわしタイム」の活動により、集団の中で主体的に考えて行動できる力が高まった。 | 学年関係なく本当に仲の良い学校だと思う。現状を維持してほしい。 | B | 行事の実行委員制度を定着させ、高学年の児童の活躍を低学年のモデルとしていく。児童が主体的に活躍する学校にしていく。 | | |
| | | | | 4 「児童のよさを理解している…90%以上 3 「児童のよさを理解している…80～90% 2 「児童のよさを理解している…70～80% 1 「児童のよさを理解している…70%未満 | 3 | 4 「児童のよさを理解している…90%以上 3 「児童のよさを理解している…80～90% 2 「児童のよさを理解している…70～80% 1 「児童のよさを理解している…70%未満 | 3 | 互いに認め合う活動を教員がしっかりと行っている。自分のことを好きと回答している児童も前期より増えた。 | ありがとうとうれしい表情が、自分と相手を認めて次のステップに行くきっかけになると思う。 | A | 引き続き、児童が自分の良さを実感できる取組やその機会を数多く設け、自己有用感を高めさせていく。 |
| | | | | 4 「学校生活が楽しいと感じている…90%以上 3 「学校生活が楽しいと感じている…80～90% 2 「学校生活が楽しいと感じている…70～80% 1 「学校生活が楽しいと感じている…70%未満 | 3 | 4 「学校生活が楽しいと感じている…90%以上 3 「学校生活が楽しいと感じている…80～90% 2 「学校生活が楽しいと感じている…70～80% 1 「学校生活が楽しいと感じている…70%未満 | 2 | 前向きよりも楽しいと感じている児童の割合が下がっている。アンケートや聞き取りにより、児童に寄り添い、丁寧に個別の課題の解決を図る。 | 学校は楽しいと思わない子を10%減少させたい。先生方の温かい心が伝わるよう地域も支援していく。 | B | 次年度は2回目のQUテストは全学年実施し、学級や教員に応じた講師の指導を全学級の学級経営に活かす。 |

| | | | | |
|--------|---|-------------------------------------|--|------|
| 学校教育目標 | <input type="radio"/> よく考える子ども <input type="radio"/> けんこうな子ども <input type="radio"/> すすんで働く子ども <input type="radio"/> 思いやりのある子ども | 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】 | 職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校 未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供 児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師 | ビジョン |
| | | | | |
| | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|------------------------------|---|----------------------|----|-----------------------|----|---------------------------|-------------------------------|----|---------------------------------------|
| 確かな学力 | 自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成 | 主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立 | 「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化 | 4 寺子屋…実施回数90%以上 | 4 | 4 学年×10分の家庭学習…90%以上 | 3 | ○推進プラン全面改定 ●学びのすすめの定着 | ふじみ寺子屋などで児童のやる気を引き出す指導をしている。 | A | [自主学習ノート]を[学びのすすめ]活用の核として、学習習慣を定着させる。 |
| | | | | 3 寺子屋…実施回数80%以上 | | 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 | | | | | |
| | | | | 2 寺子屋…実施回数70%以上 | | 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 | | | | | |
| | | | | 1 寺子屋…実施回数70%未満 | | 1 学年×10分の家庭学習…70%未満 | | | | | |
| | | 生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 | UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導 | 4 教科でのICT活用…90%以上の授業 | 4 | 4 診断シート正答数半数未満…10%未満 | 3 | ○タブレットの有効活用 ●モジュールの充実 | 大型画面の活用と会話形式で授業の進め方が分かりやすい。 | A | [モジュール授業]など、柔軟な教育課程で分かりやすい授業を展開する。 |
| | | | | 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 | | 3 診断シート正答数半数未満…20%未満 | | | | | |
| | | | | 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 | | 2 診断シート正答数半数未満…30%未満 | | | | | |
| | | | | 1 教科でのICT活用…70%未満の授業 | | 1 診断シート正答数半数未満…30%以上 | | | | | |
| | | 未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成 | 「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視 | 4 探求ノートの活用…年20回以上 | 3 | 4 探究的に学ぶ…90%以上の児童 | 3 | ○学習意欲習慣の向上 ●探求ノート有効活用 | 自分で考え表現する力を習得できる指導を進めてほしい。 | B | [探求ノート]を計画的に活用し、学習成果を[学習発表会]で表現する。 |
| | | | | 3 探求ノートの活用…年10回以上 | | 3 探究的に学ぶ…80%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 2 探求ノートの活用…年5回以上 | | 2 探究的に学ぶ…70%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 1 探求ノートの活用…年5回未満 | | 1 探究的に学ぶ…70%未満の児童 | | | | | |
| 豊かな心 | 認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成 | 個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成 | 「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進 | 4 異学年活動…実施率90%以上 | 4 | 4 社会通念上のいじめ…0～5件 | 4 | ○穏やかな学校生活 ●自己肯定感の向上 | 他者との関係の中での自己を教員が模範となり示している。 | A | ふれあい月間の「命の授業」、QUの活用など、豊かな関係性を醸成する。 |
| | | | | 3 異学年活動…実施率80%以上 | | 3 社会通念上のいじめ…6～15件 | | | | | |
| | | | | 2 異学年活動…実施率70%以上 | | 2 社会通念上のいじめ…16～30件 | | | | | |
| | | | | 1 異学年活動…実施率70%未満 | | 1 社会通念上のいじめ…31件以上 | | | | | |
| | | 認知機能を高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成 | 「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視 | 4 コグトレ…実施率90%以上 | 4 | 4 意欲的にコグトレ…90%以上の児童 | 3 | ○対人スキルが向上 ●QUのさらなる活用 | 学級の中で子供たちの良い関係が築けていて仲が良い。 | B | [コグトレ]で社会性を育てる認知-感情統制-対人スキル等を育成する。 |
| | | | | 3 コグトレ…実施率80%以上 | | 3 意欲的にコグトレ…80%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 2 コグトレ…実施率70%以上 | | 2 意欲的にコグトレ…70%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 1 コグトレ…実施率70%未満 | | 1 意欲的にコグトレ…70%未満の児童 | | | | | |
| | | 自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養 | 問題解決的あるいは体験を通した発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳 | 4 考え議論する道徳…実施率90%以上 | 4 | 4 自分事として考える…80%以上の児童 | 4 | ○自他を認め合う意識 ●人権感覚の向上 | 教員の受容的・共感的な姿勢が良きモデルとなっている。 | B | [考え議論する道徳]の授業展開、「人権集会」などで豊かな心を育成する。 |
| | | | | 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 | | 3 自分事として考える…70%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 | | 2 自分事として考える…60%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 1 考え議論する道徳…実施率70%未満 | | 1 自分事として考える…60%未満の児童 | | | | | |
| 健やかな体 | 基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成 | 新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成 | 「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着 | 4 健康観察表未記入…1日平均0～2人 | 3 | 4 病欠児童…1日の平均0～3人 | 4 | ○感染防止の徹底 ●食育の計画的推進 | 子供たちが生き生きと活動できるメリハリある対策をしている。 | B | [お弁当の日]を中心いて、家庭と連携して食育、健康教育に努める。 |
| | | | | 3 健康観察表未記入…1日平均3～5人 | | 3 病欠児童…1日の平均4～7人 | | | | | |
| | | | | 2 健康観察表未記入…1日平均6～9人 | | 2 病欠児童…1日の平均8～11人 | | | | | |
| | | | | 1 健康観察表未記入…1日平均10人以上 | | 1 病欠児童…1日の平均12人以上 | | | | | |
| | | 基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上 | 「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力 | 4 元気アップの取組…18項目以上 | 3 | 4 運動することが楽しい…90%以上の児童 | 3 | ○運動習慣が改善 ●元気UP活用充実 | 多くの教員が駆伝に参加するなど運動の楽しさを伝えている。 | B | 元気アップガイドブックを活用した「元気アップタイム」を拡大・充実させる。 |
| | | | | 3 元気アップの取組…14項目以上 | | 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 2 元気アップの取組…10項目以上 | | 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 1 元気アップの取組…10項目未満 | | 1 運動することが楽しい…70%未満の児童 | | | | | |
| | | 様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成 | 自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進 | 4 相談できる3人記入…児童の90%以上 | 4 | 4 大人に相談できる…90%以上の児童 | 3 | ○ストレスゼロ学校生活 ●不登校ゼロを目指す | ストレスとは何かを理解していないと対応は難しいと思う。 | C | [家庭と連携した情報モラル教育]など、適切に対処できる力を育成する。 |
| | | | | 3 相談できる3人記入…児童の80%以上 | | 3 大人に相談できる…80%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 2 相談できる3人記入…児童の70%以上 | | 2 大人に相談できる…70%以上の児童 | | | | | |
| | | | | 1 相談できる3人記入…児童の70%未満 | | 1 大人に相談できる…70%未満の児童 | | | | | |
| 輝く未来 | 未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成 | 言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成 | 学校図書館に学習・情報センター機能をもたらせ、全教育課程で言語活動を充実 | 4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 | 4 | 4 読書好感度…80%以上の児童 | 4 | ○図書館の活用充実 ●総合学習の単元開発 | 図書館の利用度が高く、言語メソッドを用いた学ぶ場がある。 | A | 図書館活用で言語力を鍛え、「読書感想文」や「調べる学習」を深める。 |

| | | | | |
|--------|---|------|-------------|---|
| 学校教育目標 | ○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力) | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども ○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども |
| | | | 【目指す教師像】 | ○ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|---|--|---|----|--|----|---|--|----|--|
| 確かな学力 | ○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。 | ○授業力アドバイザー事業のアドバイスを受け、教員一人一人が自己点検を行なながら、個々の授業力の向上を図る。 | ○各教員は、「授業力自己診断」を実施した。 ○児童には「授業アンケート」を実施し、そのデータをもとに授業力を向上させて学校独自の学力調査を行う | 4 全教員が「授業力自己診断」を実施した。 3 80%~100%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。 2 70%~80%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。 1 70%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。 | 4 | 4 調査が前年比+2ポイント以上 3 調査の正答率が前年比0~+2ポイント未満 2 調査の正答率が前年比0~−4ポイント未満 1 調査の正答率が前年比−4ポイント以上 | 2 | 東京都や全国の学力調査の結果の分析と考察を共有し、授業改善と学力向上につながる具体策を実践することで、1月の学力調査では目標達成を目指す。 | 学力向上に対して、校長を中心として全校で様々な取組をしていることが分かった。 | A | 様々な調査結果から、学習指導の在り方を振り返るとともに、児童の実態について次年度に引き継いでいく。 |
| | | | | 4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%~100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%~80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。 | 4 | 4 90%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%~90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%~80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。 | 3 | 年度途中と年度末に結果を比較できるように、低・中年でも2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようになした。 | 児童のICT技能は向上した。表現のツールとしての活用方法について、さらに指導を工夫していく。 | B | 児童のICT技能は向上した。表現のツールとしての活用方法について、さらに指導を工夫していく。 |
| | | | | 4 各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 各学級で図書室を月1回以下使用した。 | 3 | 4 90%以上の児童が週に1度以上図書室を利用している。 3 80%~90%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。 2 70%~80%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。 | 1 | 図書主任が中心となり、図書館支援員や担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指したが、週に1度以上利用する児童は67%にとどまった。 | 図書主任が中心となり、図書館支援員や担任、委員会担当と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指す。 | B | 図書主任が中心となり、図書館支援員や担任、委員会担当と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指す。 |
| | | | | 4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80%~100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 | 4 | 4 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている 3 70%以上の児童が自己肯定感があると感じている 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている 1 自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった | 4 | 教員が児童の変化に気付くアシテナを高くもち、丁寧な言葉掛けを行うことで、児童が安心して生活できるように努めた。 | 教員の一言は、児童の一生を左右することがある。丁寧な言葉掛けは大事である。先生方の日々の対応は丁寧だと感じる。 | A | 来年度も児童が安心して生活できるような環境づくりに努めていく。 |
| | | | | 4 すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った 3 70%~100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った 2 40%~70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った 1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った | 3 | 4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった | 3 | 道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間計画をもとに全教員で他教科との関連について確認する時間をもち、意識向上を図った。 | アンケートや日頃の関わり、個々の丁寧な対応により、児童の人権感覚は育成されていると思う。 | A | 年度初めに、道徳教育年間計画を周知することで、各教員が各教科とのつながりを意識して指導できるようにする。 |
| | | | | 4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った 3 80%~100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 2 70%~80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った | 3 | 4 学級生活満足群が50%以上 3 学級生活満足群が40%以上 2 学級生活満足群が30%以上 1 学級生活満足群が30%以下 | 4 | 特別活動部主任が、学級活動計画に基づいて実施されているかどうかチェック・改善・指導の繰り返しにより改革を行うことが大切であると感じる。 | 自己有用感を高める活動はとても大切だと感じる。点検・チェック・改善・指導の繰り返しにより改革を行うことが大切であると感じる。 | A | 次年度も年2回のQUを実施し学級経営に生かしていく。また学級活動計画の更なる充実に努めていく。 |
| | | | | 4 ○児童の自己有用感を高める活動を行う学級活動を実践する。 | 3 | 4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している 3 80%~90%未満の児童が食育のめあてを達成している 2 70%~80%未満の児童が食育のめあてを達成している 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している | 4 | 生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画と年間を通じた全校の体育的取組のよりよい改善を図ったが、昨年度比−0.3ポイントだった。 | コロナ禍でのびのび運動できることが困難な中で、前年比−0.3ポイントはよい。引き続き、体を動かすことの楽しさを伝えほしい。 | B | 年間を通じた体育的活動を充実させ、運動の習慣化を図ることで、児童の体力維持・向上を目指す。 |
| | | | | 4 ○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。 | 3 | 4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 調査結果が昨年比~+2ポイント 2 調査結果が昨年比−2ポイント以内 1 調査結果が昨年比−2ポイント以下 | 2 | 体力向上部を中心に、年間指導計画と年間を通じた全校の体育的取組のよりよい改善を図ったが、昨年度比−0.3ポイントだった。 | マスクを外す指導より、マスクの上手な使い方の指導の必要性を感じる。社会情勢の変化に対応した指導をお願いしたい。 | B | 養護教諭を中心として、計測や学級活動を活用した保健指導を充実させる。都・市の方針に応じ、生活様式について柔軟に対応していく。 |
| | | | | 4 ○新しい生活様式の習慣化を図り、健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。 | 3 | 4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している | 4 | 2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が82%と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。 | 食の大切さ、楽しさを指導してほしい。お弁当の日の日を中心に食育担当・栄養士の活躍を期待する。 | B | 市内の食材を使用した給食の日やお弁当の日を中心とし、食育計画についてより一層の充実を図る。 |
| | | | | 4 ○望ましい食習慣の形成を促進する。 | 3 | 4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している | 3 | 特別活動部を中心にキャリアアルバムの進行状況を管理し、全校でそろえて実施できた。進級・進学に関するアンケートは2月実施予定である。 | キャリアアルバムの内容を定期的に保護者と共有したい。 | B | 定期的にキャリアアルバムを保護者と共有する機会をもち、家庭と連携して児童の成長を見守る計画を作成する。 |
| 輝く未来 | ○子どもたちが自立できる基礎を築く。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。 | ○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。 | ○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分を目指す「キャリアアルバム」を作成する。 | 4 全教員が方策を実施した 3 80%~100%未満の教員が方策を実施した 2 70%~80%未満の教員が方策を実施した 1 70%未満の教員が方策を実施した | 3 | 4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる 3 80%~90%未満の児童が安心して進級・進学できる 2 70%~80%未満の児童が安心して進級・進学できる 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる | 3 | 特別活動部を中心にキャリアアルバムの内容を定期的に保護者と共有したい。 | キャリアアルバムの内容を定期的に保護者と共有したい。 | B | 定期的にキャリアアルバムを保護者と共有する機会をもち、家庭と連携して児童の成長を見守る計画を作成する。 |
| | | | | 4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 80%~100%未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した | 4 | 4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している | 4 | 毎学期、多彩な文化・スポーツのイベントがあり児童も楽しんでいる。今後は市内の様々な国の人と接する機会をもってほしい。 | 毎学期、多彩な文化・スポーツのイベントがあり児童も楽しんでいる。今後は市内の様々な国の人と接する機会をもってほしい。 | A | 地域・外部人材の活用について情報を集め、様々な人と児童が交流できるようにする。 |
| | | ○学校の取組を、保護者や地域に向けて発信し、教育活動への参画意識を高める。 | ○学校ホームページや学校だより等を通じて保護者や地域に児童の活動等を発信する。 | 4 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した 3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した | 4 | 4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。 | 3 | 市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均76.5%だった。体力向上と将来や夢に関する項目の理解向上を図る必要がある。 | これまで以上にホームページやマチコミで教育活動を発信してほしい。 | B | 情報を発信する大切さを共有し、担当だけでなく各分掌の担当者がホームページで情報を発信できるようにする。 |

| | | | | |
|--------|---|------|-------------|--|
| 学校教育目標 | ◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | ・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童 |
| | | | 【目指す教師像】 | ・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|---|-----------------------------------|---------------------------------------|--|----|--|----|---|--|----|---|
| 確かに学力 | 基礎的・基本的な知識及び技能を身につけ、主体的に学びに向かう力を育成する。 | 自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。 | 体育の授業改善を中心、学び合いの授業を実践する。 | 4 学び合い活動等の交流…80%以上の授業 3 学び合い活動等の交流…70%以上の授業 2 学び合い活動等の交流…60%以上の授業 1 学び合い活動等の交流…60%未満の授業 | 2 | 4 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童 | 3 | 令和4年度の校内研究のテーマを「自分を表現し、学びを深める児童の育成」とし、どの学年・学級においても、学び合い活動を学習に取り入れている。 | 取組指標の評価に対し、成果指標の評価が向上している。 | B | 校内研究を通して、学び合いのできる児童を育成する。 |
| | | | | 4 強化月間中の家庭学習の提出率…90%以上の児童 3 強化月間中の家庭学習の提出率…80%以上の児童 2 強化月間中の家庭学習の提出率…70%以上の児童 1 強化月間中の家庭学習の提出率…70%未満の児童 | 3 | 4 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童 | 3 | 今年度より、家庭学習教科時間の内容を整理し、子供のやる気を引き出しながら、家庭学習の提出率向上に努めている。 | 取組指標、成果指標が共に良く、授業が順調に進められた。 | B | 学力向上部会から家庭学習に関する企画を学期に1回ずつ提案する。 |
| | | | | 4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員 2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 | 4 | 4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童 | 3 | 児童が学習の見通しをもつことができるよう授業や学習環境を工夫している。 | 取組指標、成果指標が共に良く、授業が順調に進められた。 | B | 1時間の学習の流れを児童に示し、学習の見通しを児童にもたせるようにする。 |
| 豊かな心 | 道徳教育の充実・推進を図り、規範意識、社会参画意識を養い、自己有用感を育成する。 | 道徳授業地区公開講座を中心として組織的に道徳教育に取り組む。 | 道徳教育推進教師を中心に授業改善を進め、より良く生きるための道徳性を養う。 | 4 考え、議論する道徳授業の実施…95%以上の教員 3 考え、議論する道徳授業の実施…90%以上の教員 2 考え、議論する道徳授業の実施…80%以上の教員 1 考え、議論する道徳授業の実施…80%未満の教員 | 2 | 4 社会通念上のいじめ…0件 3 社会通念上のいじめ…1件から5件 2 社会通念上のいじめ…6件から10件 1 社会通念上のいじめ…11件以上 | 3 | タブレット教材等を活用しながら、考え、議論する道徳の授業を推進している。 | 議論を深め、行動につながるような道徳の教育を進める。 | C | 議論を自分事として行い、行動につながるような道徳の教育を行う。 |
| | | | | 4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員 2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 | 4 | 4 安心して生活できている…95%以上の児童 3 安心して生活できている…90%以上の児童 2 安心して生活できている…80%以上の児童 1 安心して生活できている…80%未満の児童 | 4 | 全教員が生活指導夕会などで児童の様子について情報共有し、安心して学習できる環境を作っている。 | 教員が個々の児童について情報共有がしつかりできている。道具類の整理整頓も児童ができると良い。 | A | 児童の学校での生活環境である教室環境を整え、気持ち良く生活できるようにする。 |
| | | | | 4 集団としての活動が楽しめた児童…90%以上 3 集団としての活動が楽しめた児童…80%以上 2 集団としての活動が楽しめた児童…70%以上 1 集団としての活動が楽しめた児童…70%未満 | 4 | 4 楽しく学校生活を送っている…95%以上の児童 3 楽しく学校生活を送っている…90%以上の児童 2 楽しく学校生活を送っている…80%以上の児童 1 楽しく学校生活を送っている…80%未満の児童 | 4 | 高学年が積極的にリーダーシップを發揮し、縦割り班活動を充実したものにしている。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | A | 高学年をリーダーとした縦割り班活動を続けていく。 |
| | | | | 4 縦割り班活動を通して、自主的、実践的に集団行動する態度を育成する。 | 4 | 4 遊んだり体を動かしたりしている…95%以上の児童 3 遊んだり体を動かしたりしている…90%以上の児童 2 遊んだり体を動かしたりしている…80%以上の児童 1 遊んだり体を動かしたりしている…80%未満の児童 | 4 | 業間に行った持久走や長縄の活動を通して児童が体を動かすこと親しんだ。 | 体を動かすことが好きな児童が増えているのは良い。 | A | 年間を通じた体育旬間の計画を立て、児童が積極的に体を動かす機会を設ける。 |
| 健やかな体 | 体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、運動に親しむ資質や能力を育成する。 | 体力調査結果を検証・活用し、体育旬間を改善する。 | 体育旬間の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして実施する。 | 4 体育旬間の活動に取り組んだ児童…90%以上 3 体育旬間の活動に取り組んだ児童…80%以上 2 体育旬間の活動に取り組んだ児童…70%以上 1 体育旬間の活動に取り組んだ児童…70%未満 | 4 | 4 遊んだり体を動かしたりしている…95%以上の児童 3 遊んだり体を動かしたりしている…90%以上の児童 2 遊んだり体を動かしたりしている…80%以上の児童 1 遊んだり体を動かしたりしている…80%未満の児童 | 4 | 組織として計画的に安全に組織して指導ができる。多くの児童が自ら実践できるようになっている。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | B | SOSカードなど児童自身が安全について考える手立てを続け、充実させていく。 |
| | | | | 4 安全に関する指導の実施回数…20回以上 3 安全に関する指導の実施回数…15回以上 2 安全に関する指導の実施回数…11回以上 1 安全に関する指導の実施回数…11回未満 | 4 | 4 安全や健康についての知識を生かす…95%以上の児童 3 安全や健康についての知識を生かす…90%以上の児童 2 安全や健康についての知識を生かす…80%以上の児童 1 安全や健康についての知識を生かす…80%未満の児童 | 3 | 元気アップガイドブックを活用した取組を行い、児童が食事や栄養についての知識を生かしている。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | B | 元気アップガイドブックを活用し、児童が自分自身を知ったり、運動や健康について考えたりできるようにする。 |
| | | 生活指導部を中心に、安全に配慮した学校運営を行う。 | 自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。 | 4 元気アップガイドブックの活用…9回以上 3 元気アップガイドブックの活用…6回以上 2 元気アップガイドブックの活用…3回以上 1 元気アップガイドブックの活用…3回未満 | 3 | 4 食事や栄養についての知識を生かす…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かす…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かす…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かす…80%未満の児童 | 3 | 元気アップガイドブックを活用した取組を行い、児童が食事や栄養についての知識を生かしている。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | B | 元気アップガイドブックを活用し、児童が自分自身を知ったり、運動や健康について考えたりできるようにする。 |
| | | | | 4 外部人材等を活用した伝統文化の授業…全学年 3 外部人材等を活用した伝統文化の授業…五つの学年 2 外部人材等を活用した伝統文化の授業…四つの学年 1 外部人材等を活用した伝統文化の授業…三つの学年 | 1 | 4 自分や友達を大切にしている…95%以上の児童 3 自分や友達を大切にしている…90%以上の児童 2 自分や友達を大切にしている…80%以上の児童 1 自分や友達を大切にしている…80%未満の児童 | 4 | 外部人材は、主に職員研修での講義等で活用している。 | より地域とのつながりや地域人材の活用が必要である。 | C | 地域の外部人材を積極的に活用して、効果的な学習ができるようにする。 |
| 輝く未来 | 日本の伝統文化理解と継承を図り、多様な文化の尊重と国際理解・協力の態度を育成する。 | 伝統文化に関する理解を深め、多様な文化等を受け入れる態度を育てる。 | 心のバリアフリーを浸透させ、多様性を尊重する態度を育てる。 | 4 理解学習の実施…全学年 3 理解学習の実施…五つの学年 2 理解学習の実施…四つの学年 1 理解学習の実施…三つの学年 | 4 | 4 思いやの心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやの心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやの心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやの心をもって行動している…80%未満の児童 | 4 | 特別支援教育巡回指導員や心理の専門の講師による理解学習を教員研修で行い理解教育の充実を図った。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | B | 特別支援教育について研修を行うことで職員が理解を深めて児童の支援に取り組めるようにする。 |
| | | | | 4 キャリア・パスポートの活用…4回以上 3 キャリア・パスポートの活用…3回以上 2 キャリア・パスポートの活用…2回以上 1 キャリア・パスポートの活用…1回未満 | 4 | 4 自分の将来について考える…95%以上の児童 3 自分の将来について考える…90%以上の児童 2 自分の将来について考える…80%以上の児童 1 自分の将来について考える…80%未満の児童 | 3 | キャリア・パスポートを学期毎に活用し、キャリア教育の充実を図っている。中学校・家庭との連携も図っている。 | 取組指標や成果指標の評価から学校としてしつかり取り組んでいる様子が分かる。 | B | キャリア・パスポートを自分のポートフォリオとして活用できるように児童が振り返る時間をもたせる。 |

| | | | | |
|--------|------------------------------|------|-------------|--|
| 学校教育目標 | ◎よく考える子 ◎心豊かな子 ◎たくましい子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○全教育活動にSDGsの目標を関連させる。 ○人間尊重の精神を基調として、たくましく生きる人間性豊かな子どもを育成する。 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○様々なかかわりを通して、自尊感情や自己有用感をもてる児童 |
| | | | 【目指す教師像】 | ○経営参画をもち、職層に応じた役割を果たす教師 ○指導力の向上を果たすべく、常に自己研鑽に励む教師 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|---|--|--|--|----|--|----|--|---|----|--|
| 確かな学力 | 基礎・基本を確実に定着させた上で、全ての教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を育成する。 | 様々な指導を通じ、基礎・基本の定着を図る。 | 朝学習・朝読書、東京ベーシックドリルなどの活用を図る。 | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 全学年の定着率が90%以上 3 全学年の定着率が80%以上 2 全学年の定着率が70%以上 1 全学年の定着率が70%未満 | 3 | 朝の時間の有効活用ができたが、基礎・基本の習熟については個人差が解消されない。 | 授業での工夫、朝の時間の活用など、引き続き取組の充実をしていただきたい。 | B | 引き続きタブレット端末も有効活用しながら個人差に対応した課題を工夫する。 |
| | | | | 4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。 | 3 | 4 すすんで話し合えたと思える児童が80%以上 3 すすんで話し合えたと思える児童が70%以上 2 すすんで話し合えたと思える児童が60%以上 1 すすんで話し合えたと思える児童が60%未満 | 3 | 研修会や授業観察を経て、児童が意欲的に思考・判断する姿が見られるようになつた。 | 「話し合い」や「学び合い」の機会を保証しながら工夫し、理解力、そして考える力の育成を図つてほしい。 | B | 引き続き振り返りの時間の充実を通して児童が「何ができるようになったか。」を明確にする。 |
| | | 論理的思考力を身に付け、情報活用能力の育成を図る。 | 年間指導計画に基づき、プログラミング的思考を図る授業を実践する。 | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 論理的思考力を身に付けた児童が80%以上 3 論理的思考力を身に付けた児童が70%以上 2 論理的思考力を身に付けた児童が60%以上 1 論理的思考力を身に付けた児童が60%未満 | 3 | 年間計画に沿つて実行できた。教科間で関連を図つて実践できた部分もあつた。 | 今後もプログラミング教育の効果を検証した上で検証を重ね、どの教員も共通して取り組んでほしい。 | B | 引き続き年間指導計画を見通し、日常的に教科間の関連を図つて実践していく。 |
| | | | | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 すすんで読書に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで読書に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで読書に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで読書に取り組んだと思える児童が70%未満 | 3 | タブレット端末で読書記録の作成を取り入れ、意欲的に取り組む児童が増えた。 | すすんで読書する機会をこれからも継続して与え、文章に親しむ機会が増えることを期待する。 | A | 引き続き図書の時間や図書の取組の充実を図り、取組の個人差を解消していく。 |
| 豊かな心 | 自己有用感をもち、互いのよさを感じて認め合い、支え合う心を醸成する。 | 挨拶の習慣の定着化を図り、言語環境を整え、良好な人間関係を築くため、「オアシス」を基に言語環境を整える。 | 挨拶の習慣化、より良い人間関係を築くため、「オアシス」を基に言語環境を整える。 | 4 全教育活動で行っている。 3 90%以上の教育活動で行っている。 2 80%以上の教育活動で行っている。 1 取組が教育活動の80%未満である。 | 4 | 4 90%以上が挨拶ができ、「オアシス」を心がける。 3 80%以上が挨拶ができ、「オアシス」を心がける。 2 70%以上が挨拶ができ、「オアシス」を心がける。 1 挨拶ができ、「オアシス」を心がける児童が60%未満。 | 4 | 挨拶が習慣化し、良好な人間関係に結び付いている。個人差も解消されてきている。 | 全ての児童、教師が自然と挨拶できる関係にまで高めてほしい。 | A | 引き続き取組の充実を図り、個人差の解消を目指す。 |
| | | | | 4 全学級が道德教育との関連を図っている。 3 全学級で事前指導、事後指導を行っている。 2 全学級で事前指導を行っている。 1 障害者理解の授業のみを行っている。 | 4 | 4 障害者との共生を具体的に理解した児童が90%以上 3 障害者との共生を具体的に理解した児童が80%以上 2 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%以上 1 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%未満 | 3 | 体験活動が児童の障害者理解に結び付いた。共生社会を築く大切さを記述している。 | 多様性を認め、支え合う心を育てるためにも障害者理解は有効な方法として評価できる。継続してほしい。 | B | 体験活動の成果と道徳の授業の関連を一層強め、共生社会の構築に努める児童を育てる。 |
| | | 体験活動と道徳教育を関連させ、共生社会の礎を築く。 | 全学年でオリンピック・パラリンピックのレガシーを取り入れた障害者理解を図る。 | 4 全学級が道德教育との関連を図っている。 3 全学級で事前指導、事後指導を行っている。 2 全学級で事前指導を行っている。 1 障害者理解の授業のみを行っている。 | 4 | 4 85%以上が「相談してみようと思う大人がいる。」 3 75%以上が「相談してみようと思う大人がいる。」 2 65%以上が「相談してみようと思う大人がいる。」 1 「相談してみようと思う大人がいる。」割合が65%未満 | 3 | 日常的な指導、定期的なアンケートを通して互いを認める大切さが育っている。 | 教職員には、特に子どもが他者との関係で戸惑い、悩んでいるときに相談できる存在になってほしい。 | A | 昨年度よりも「相談してみようとする大人がいる。」の割合が9%向上している。引き続き向上を図っていく。 |
| | | | | 4 全学級が具体的な取組を行っている。 3 12学級以上が具体的な取組を行っている。 2 10学級以上が具体的な取組を行っている。 1 具体的な取組を行っている学級が10学級未満である。 | 3 | 4 85%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満 | 3 | 「中神サーキット」「笑顔の日」、持久走の取組を通して児童の運動への関心を喚起できた。 | 更に休み時間により多くの児童が外で思い切り遊べるようにしてほしい。 | B | 研修会や授業観察を通して体育の授業の充実を更に図り、体力向上を図っていく。 |
| 健やかな体 | 体力の着実な向上を図りながら不安や困難に負けない心身ともに健康な児童の育成を図る。 | 体を動かす習慣を身につけ、体力向上を図る。 | 体育の授業、「中神サーキット」「笑顔の日」の取組の充実、休み時間の遊びを有効活用し、体力向上を図る。 | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 80%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満 | 3 | 「中神サーキット」「笑顔の日」、持久走の取組を通して児童の運動への関心を喚起できた。 | 更に休み時間により多くの児童が外で思い切り遊べるようにしてほしい。 | B | 研修会や授業観察を通して体育の授業の充実を更に図り、体力向上を図っていく。 |
| | | | | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 3 | 4 80%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満 | 3 | 家庭での取組を学校でも振り返られるようになっており、生活習慣の定着が向上している。 | 特に家庭との連携を根気よく続けることで心身ともに健康な状態で学校生活を送る児童を育成してほしい。 | A | 「毎日同じ時刻に起きていいないと答えた児童が18%いる。取組を継続し、更なる改善を図る。 |
| | | 生活習慣の定着と体力向上の関連を図る。 | 「元気アップガイドブック」「グッドモーニング60分」の取組を学期に1回設定し、保護者にも周知する。 | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 80%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満 | 3 | 「中神サーキット」「笑顔の日」、持久走の取組を通して児童の運動への関心を喚起できた。 | 更に休み時間により多くの児童が外で思い切り遊べるようにしてほしい。 | B | 研修会や授業観察を通して体育の授業の充実を更に図り、体力向上を図っていく。 |
| | | | | 4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。 | 4 | 4 80%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満 | 3 | 家庭での取組を学校でも振り返られるようになっており、生活習慣の定着が向上している。 | 特に家庭との連携を根気よく続けることで心身ともに健康な状態で学校生活を送る児童を育成してほしい。 | A | 「毎日同じ時刻に起きていいないと答えた児童が18%いる。取組を継続し、更なる改善を図る。 |
| 輝く未来 | 自己の成長を実感し、自己有用感をもとに更に自己を向上させようとする児童を育成する。 | 体験活動や地域人材を生かし、郷土昭島に対する愛着や誇りを育てる。 | 外部人材を活用し、伝統文化の学習、体験的、感動的な学習活動を展開する。 | 4 全学年で実施している。 3 5つの学年で実施している。 2 4つの学年で実施している。 1 3つの学年で実施している。 | 4 | 4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満 | 3 | 外部人材を活用した取組が復活し、新たな人材との連携で取組が充実してきた。 | 様々な場面で体験活動による「実感」と「体得」を基にした教育活動を展開し続けてほしい。 | B | 地域人材、外部人材とのつながりは今後も維持をし、児童の活動を保障していく。 |
| | | | | 4 全学級で実施している。 3 12学級以上で実施している。 2 10学級以上で実施している。 1 実施している学級が10学級未満である。 | 4 | 4 90%以上が「道德的実践意欲を抱いた。」 3 80%以上が「道德的実践意欲を抱いた。」 2 70%以上が「道德的実践意欲を抱いた。」 1 道徳的実践意欲を抱いた児童が70%未満。 | 3 | 道徳の授業の充実を通して児童の道徳的実践への意欲が高まった。 | 児童が自ら善悪の判断を行い、道徳的実践力を高める取組とその一層の効果を期待したい。 | B | 「思いやりの心をもつていい」と思う児童が90%に達した。取組の充実を継続していく。 |
| | | 道徳的心情を培い、自ら実践しようとする道徳的態度を育成する。 | 学習指導要領を基に、道徳教育推進教師を中心に、道徳の授業の充実を図る。 | 4 全学級で実施している。 3 12学級以上で実施している。 2 10学級以上で実施している。 1 実施している学級が10学級未満である。 | 4 | 4 90%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 3 80%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 2 70%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 1 児童が身を守る力を身に付けた児童が70%未満。 | 3 | 安全指導や避難訓練の取組を通じ、「身を守る」ことの意識が育つ。 | 日頃の安全な生活のための配慮、充実した安全指導を継続してほしい。 | A | 指導の継続に加え、事前指導や予防指導の充実も図り、実践の成果を出していく。 |
| | | | | 4 全学級で実施している。 3 12学級以上で実施している。 2 10学級以上で実施している。 1 実施している学級が10学級未満である。 | 4 | 4 90%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 3 80%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 2 70%以上の児童が身を守る力を身に付けた。 1 児童が身を守る力を身に付けた児童が70%未満。 | 3 | 安全指導や避難訓練の取組を通じ、「身を守る」ことの意識が育つ。 | 日頃の安全な生活のための配慮、充実した安全指導を継続してほしい。 | A | 指導の継続に加え、事前指導や予防指導の充実も図り、実践の成果を出していく。 |

| | | | |
|--------|--|-------------|---|
| 学校教育目標 | 「だれもが笑顔になる学校」 ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子 | 【目指す学校像】 | 「だれもが笑顔になる学校」 ○ひとりぼっちにしない教育 ○未来に向かってチャレンジする教育 |
| | | 【目指す児童・生徒像】 | ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子 |
| | | 【目指す教師像】 | ○子供第一主義で行動する教師 ○子供の「人間モデル」としての教師 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|---|---|--------------------------------|----|---------------------------------|----|---|---------|--|----------|
| 確かな学力 | 児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現。 | 児童が一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究を行うことで、授業力の向上を図る。 | 教員それぞれが抱える課題について小グループで検証することで、より主体的な授業改善を図る。 | 4 全グループで授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。 | 4 | 4 国語・算数の学力調査において4学年以上で前年度よりプラス | 2 | 教員が課題意識をもって授業改善に取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を実感できた。しかし、学力調査の結果には現れていないのが現状である。同じ内容を例年より早く行った影響も考えられる。(定着の時間の確保不足) | B | 具体的な方策は間違っていないと考えておらず、引き続き授業改善を進める。学力調査の結果に現れるまで継続していく必要がある。 | |
| | | | | 3 1グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。 | | 3 国語・算数の学力調査において3学年以上で前年度よりプラス | | | | | |
| | | | | 2 2グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。 | | 2 国語・算数の学力調査において2学年以上で前年度よりプラス | | | | | |
| | | | | 1 3グループを除いて、授業公開を伴う授業改善に取り組んだ。 | | 1 国語・算数の学力調査において前年度よりプラスが1学年以下 | | | | | |
| | | 児童が学ぶことの楽しさを味わわせる授業を積み重ね、児童の学びに向かう力を向上させていく。 | 児童自身に課題意識をもたせ、タブレットを活用した児童主体の個別最適な学習を開拓していく。 | 4 8割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。 | 4 | 4 児童アンケート「進んで学習に取り組む」90%以上 | 4 | 児童が思考を深め、意見を交流するためのタブレット活用が全校で進み、個別最適な学習が展開できるようになった。アンケート結果からも児童の学習意欲が向上したことが分かる。 | A | タブレットの活用で個別学習が展開できるようになったのは素晴らしい。今後、使い方のルールやマナーを指導していただきたい。 | |
| | | | | 3 7割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。 | | 3 児童アンケート「進んで学習に取り組む」80%以上 | | | | | |
| | | | | 2 6割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。 | | 2 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%以上 | | | | | |
| | | | | 1 16割未満の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。 | | 1 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%未満 | | | | | |
| | | 児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。 | 単元ごとの3観点評価を計画的に実行し、指導と評価の一体化を意識した授業を行う。 | 4 全学年で計画通り実施した。 | 4 | 4 児童アンケート「授業内容が分かる」90%以上 | 4 | タブレットの活用により、児童の実態把握のみでなく、即時評価やポートフォリオ的な評価が容易になり、より計画的な評価が可能になった。児童のアンケートでも理解度が高いことが分かる。 | A | タブレットの使用頻度が上がることで、今後課題も出てくることが予想される。使い方の指導を両立していただきたい。 | |
| | | | | 3 5学年以上で計画通り実施した。 | | 3 児童アンケート「授業内容が分かる」80%以上 | | | | | |
| | | | | 2 4学年以上で計画通り実施した。 | | 2 児童アンケート「授業内容が分かる」70%以上 | | | | | |
| | | | | 1 3学年以下で計画通り実施した。 | | 1 児童アンケート「授業内容が分かる」70%未満 | | | | | |
| 豊かな心 | 自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成。 | 自発的にあいさつをする態度を養い、あいさつが自然に通い合う関係をつくる。 | ふれあい月間で挨拶運動を実施する。年度内で3回学校生活目標に挨拶を取り上げ、挨拶指導の強化を図る。 | 4 全教員が日常的に指導した。 | 3 | 4 児童アンケート「自分からあいさつ」が80%以上 | 3 | 年度当初に比べると、挨拶ができる児童が増えた。児童自身が学校の良いところとして挨拶ができることを挙げている。ただ、自発的な地域の方々に対する挨拶や、聞こえる声での挨拶が十分できていない。 | A | 挨拶できる児童が増えた。より自発的に挨拶できるような環境づくりに保護者や地域も協力していただきたい。 | |
| | | | | 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 | | 3 児童アンケート「自分からあいさつ」が70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 | | 2 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%以上 | | | | | |
| | | | | 1 80%未満の教員が日常的に指導した。 | | 1 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%未満 | | | | | |
| | | 新型コロナウィルスの感染拡大防止を講じながら児童が落ち着いて安心した学校生活を送ることができるようになる。 | 感染拡大予防ガイドラインを活用し、児童、保護者、教職員が予防策を実施できるようにする。また感染状況等はメール等で公開する。 | 4 全教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。 | 4 | 4 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が80%以上 | 4 | 児童が感染拡大予防ガイドラインを実践でき、安心して生活できる環境が整った。保護者も安心だったのではないかと思う。 | A | 児童会活動の中で、挨拶に対する取組ができるように働きかける。また、地域の方との関わりをもたらし、児童が意識をもって挨拶ができる取組をしていく。 | |
| | | | | 3 90%以上の教員ガイドラインが活用し、実践に活かした。 | | 3 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。 | | 2 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%以上 | | | | | |
| | | | | 1 80%未満の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。 | | 1 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%未満 | | | | | |
| | | いじめの未然防止・早期発見・早期解決を行う。人権についての教育を推進する。 | 軽微ないじめを見逃さない情報共有の日常化と、必要に応じていじめ対策委員会を開き、組織的な対応を行う。 | 4 全教員が日常的に情報共有を行った。 | 4 | 4 児童アンケート「いじめは許さないことが90%以上 | 4 | 日々の細やかな対応により、児童がいじめに対する対応を実践している。保護者も安心だったのではないかと思う。 | A | 規制の緩和に即しながら、状況に応じたガイドラインの見直しを行っていく。また、引き続き基本的な感染予防についての注意喚起や取組を続ける。 | |
| | | | | 3 90%以上の教員が日常的に情報共有を行った。 | | 3 児童アンケート「いじめは許さないことが80%以上 | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の教員が日常的に情報共有を行った。 | | 2 児童アンケート「いじめは許さないことが70%以上 | | | | | |
| | | | | 1 80%未満の教員が日常的に情報共有を行った。 | | 1 児童アンケート「いじめは許さないことが70%未満 | | | | | |
| 健やかな体 | 自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成。 | 元気アップガイドブックの運動内容を参考にして、児童の体力向上を目指す。 | 休み時間や朝の時間を活用し、元気アップタイムを実施する。 | 4 全校児童が参加した。 | 4 | 4 体力テストの結果が4学年以上8項目中4項目で都平均以上 | 3 | 新体カテストの結果の考察を保健・体育プロジェクトで進め、本校の課題を明らかにした。全学年に共通した課題である「敏捷性」の向上を目指し、元気アップタイムを活用し、クラスごとに長編の記録に挑戦したり、鬼遊びを企画したりして、すんで運動をする環境を作った。 | B | 元気アップタイムの実施のように環境づくりは評価できる。引き続き、課題解決に向けた取組をお願いしたい。 | |
| | | | | 3 90%以上の児童が参加した。 | | 3 体力テストの結果が4学年以上8項目中3項目で都平均以上 | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の児童が参加した。 | | 2 体力テストの結果が4学年以上8項目中2項目で都平均以上 | | | | | |
| | | | | 1 70%以上の児童が参加した。 | | 1 体力テストの結果8項目中1項目で都平均以上が4学年未満 | | | | | |
| | | 元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用し、児童の健康意識を高める。 | 生活リズムカード(グッドモーニング60)に取り組み、児童が自身の生活の振り返りを行う。 | 4 全学級で記録と振り返りを行った。 | 4 | 4 児童アンケート「健康について学び理解している」80% | 4 | 長期体操明けに全校で生活リズムカードに取り組むことで、本来の生活リズムを早めに取り戻すことができ、健康的に学校生活を送ることができた。学期初めの計測の際に、感染症対策や熱中症対策のスライドを見せて、健康管理を自分でできるように呼びかけた。 | A | 引き続き、児童の様子を丁寧に見るとともに、気になる点は早期の相談や情報共有を行う。いじめ対策委員会の役割周知やいじめ予防対策の冊子を活用し職員の意識を高め、組織としての対応を心がける。 | |
| | | | | 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 | | 3 児童アンケート「健康について学び理解している」70% | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 | | 2 児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上 | | | | | |
| | | | | 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。 | | 1 児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満 | | | | | |
| | | 児童の危険を予測し、回避する能力を向上させる。 | 安全教育プログラム等を活用した安全指導を行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。 | 4 全学級で指導・活用した。 | 4 | 4 児童アンケート「安全を理解し生活」80% | 4 | 長期の避難訓練を月に1回実施、児童の危険を予測する力や回避する力を育成した。「自分の身は自分で守る」という意識が多くの児童が身に付いた。警察と協力して実施した不審者対応訓練では、児童の避難行動について高評価をいただいた。 | A | 次年度も引き続き予告なしの避難訓練を行ってもらいたい。安全指導の時間を活用し、避難が必要な場合の適切な行動を考えさせていく。 | |
| | | | | 3 90%以上の学級で指導・活用した。 | | 3 児童アンケート「安全を理解し生活」70% | | | | | |
| | | | | 2 80%以上の学級で指導・活用した。 | | 2 児童アンケート「安全を理解し生活」60%以上 | | | | | |
| | | | | 1 80%未満の学級で指導・活用した。 | | 1 児童アンケート「安全を理解し生活」60%未満 | | | | | |
| 輝く未来 | 人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成。 | 学級活動や学校行事などに、自己のよさを発揮しながら積極的にかかわり、自己実現を図ろうとする態度を養う。 | 児童が自動的に参画できるように、「特別活動 大人の10の流儀」を意識させる。 | 4 全教員が意識し、実践に生かした。 | 4 | 4 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」90%以上 | 3 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------|--------------------------------------|------|-------------|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ◎すすんとする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | 子供一人一人の『幸せ』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校 | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | どの共同体でも力を発揮できる子(2030年の日本で生きる子供たちへ) | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | 教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師 | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|-----------------------------------|--|--|----|--|----|---|---|----|---|
| 確かに学力 | 児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する | 「協働的な学び」の具現化 | ・体験型学習の充実 ・主体性を引き出す課題の提示 ・対話的な学びの充実 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 4 | 4 90%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答 3 80%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答 2 70%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答 1 60%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答 | 3 | 行事や新規の学習内容等を通じて、高学年を中心に主体的な学びへの意欲が高まりつつある。 | ・遊学の効果を評価する ・体験型学習のさらなる充実を期待する | B | 教職員一丸となり、より児童主体の学校経営を具体的に推進する。 |
| | | 「個別最適な学び」の具現化 | ・ICTの活用スキル向上 ・個に応じた学習方法の保証 ・個に応じた学習評価の工夫 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答 3 80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答 2 70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答 1 60%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答 | 4 | タブレット活用促進もあり、児童の学習意欲は安定している。より個に応じた指導、学習内容の工夫が必要。 | ・基本的な学習も大事にした上でICT活用を ・ICT活用はもとより自由な学びを保証すべき | A | 各学年1単元を定め、個別最適な学習を先鋭的に具現化する。 |
| | | | ・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 | 4 | 授業のわかりやすさや学習意欲を、学力向上につなげられるかが課題。 | ・学力調査分析、授業の振り返り、個別学習に注目する ・考えるロジックの構築を | B | 授業の振り返りと家庭学習をさらに工夫し、知識の定着から再構築する。 |
| 豊かな心 | 多様な見方・考え方を働きかせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心のクセを身に付ける | 多様性を認め合う心の醸成 | ・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育への理解 ・人権感覚の育成 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 4 | 4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 | 4 | この結果は校長講話に連動した担任の指導や特別支援教育の成果と考える。 | ・ダイバーシティの発想が必要 ・多様性を認め合う空気感がよい | A | すべての教育活動で多様性の相互承認を一層進めていく。 |
| | | 感性を豊かにする教育の充実 | ・読書活動の充実 ・芸術的感性への刺激 ・自然・栽培体験の充実 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 3 80%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 2 70%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 1 60%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 | 4 | 一部の学年で栽培活動が活性化した。読書意欲や芸術的感性をさらに育みたい。 | ・展覧会の取組を評価する ・読書はクラス間で差がある | A | 読書意欲および芸術的な感性を刺激する取組を具現化する。 |
| | | | ・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 3 80%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 2 70%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 1 60%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 | 3 | この目標は多くの教育活動と連動するため、今後も意図的な見取りが必要。 | ・児童の関係性が重要・スポーツなどの行事も大事 | A | 児童自ら取り組む活動をさらに増やし、その達成感を味わわせる機会を意図的に計画する。 |
| 健やかな体 | 自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着 | 体を動かす喜びの実感 | ・体育の授業改善 ・元気アップガイドブック活用 ・体育朝会の活用 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 3 80%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 2 70%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 1 60%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 | 3 | イベント的な取組は充実している。日常的な体育の授業改善が課題。 | ・体育朝会を評価 ・校庭のさらなる活用を ・体力強化に取り組んで | A | 授業観察に体育を位置付けるとともに、適時性あるOJTで体育のポイントを共有する。 |
| | | 生活習慣の改善 | ・GM60の推進 ・SNSルールの推進 ・食育の推進 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 1 60%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 | 3 | 食育の取組は著しく活性化した。GM60やSNSルールのマンネリ化が課題。 | ・食育シンポジウムや栽培活動などを評価する ・登校にマイペースな子への支援を | A | 食育の定着を図るとともに、児童自身でGM60やSNSルールを考える機会を設定する。 |
| | | | ・いじめ防止の推進 ・自他の「性・生命」の尊重 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 4 | 4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 | 4 | 全体的には学校生活が安定。SOSの出し方はじめ、安全教育も学校全体の流れが見えてきた。 | ・SOSの出し方教育を評価する ・いじめ対応を具体策をわかりやすく示してほしい | A | いじめは許さない強い発信とともに、今年の安全教育を軌道にのせていく。 |
| 輝く未来 | 非認知能力の育成 | 「自己効力感」の向上 ※次の目標 「自己有用感」の向上 | ・「あいさつ」の推奨 ・反応、返信の推奨 ・特別活動(係、委員会活動等)の形成的評価 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 4 | 4 90%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答 3 80%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答 2 70%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答 1 60%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答 | 4 | 校内で自己効力感を高める機運は高まってきた。次のステップへの見極めが次の課題。 | ・「まずやってみよう！」の精神を評価する ・まず自分を大切にすることから | A | 自己効力感⇒有用感⇒肯定感の流れを意識しつつ、次年度当初は今年の成果を継続させていく。 |
| | | | ・外部人材の活用 ・行事への主体的な参加 ・自ら企画する機会の保証 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 | 4 | 地域の資源や人材の活用は活性化した。このリソースを児童の主体性と連動できるかが次の課題。 | ・地域や外部に学校公開をしてほしい ・コロナ禍での工夫を評価する | B | 次年度も地域のリソースは積極的に活用し、チーム光華の厚みを増していく。 |
| | | 自己を見つめる力の醸成 | ・キャリアアルバムの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動 | 4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた | 3 | 4 90%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 3 80%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 2 70%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 1 60%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 | 3 | 保護者とも共有したキャリアアルバムの活用は成果。核となる道徳の授業改善が課題。 | ・心をとめる取組を評価する ・キャリアアルバムの認知度が低い | B | キャリアアルバムの活用は継続。道徳の授業改善策を模索する。 |

| | | | |
|--------|-------------------------------|-------------------------------------|---|
| 学校教育目標 | ○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子 | 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】 | 人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小 |
| | | | 互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。 |
| | | | 自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|---|---|--|----|---|----|---|--|--|--|
| 確かな学力 | ◎主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。 | 児童の学習に対する目的意識を大切にし、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施する。 質の高い個別指導・家庭学習を行う。 | 学習のめあての提示、振り返りを実施し、児童が何を学んだか自覚できるようにする。 家庭学習チェック表を活用し、児童の学びの習慣化と個別の対応を工夫する。 | 4 全12学級でどちらも実施した。 3 11学級でどちらも実施した。 2 8学級以上でどちらも実施した。 1 8学級未満しか実施できなかった。 | 4 | 4 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上 3 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-5pt以上 2 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt以上 1 全国学力調査の国語・算数の正答率が全国-8pt未満 | 2 | 知識・技能を定着させる指導と考え方や表現の仕方を身に付ける指導をバランスよく実施する。 | 授業観察とフィードバックで授業改善の機会が設けられている。授業を参観して児童も落ち着いた態度で集中して授業を受けている。学力調査の結果にもつながっていくと考える。 | A | 昭島市教育委員会とも連携しながら授業改善の具体的な内容を共通理解し、1年間を通して全員で改善に取り組めるようにする。 |
| | | | | 4 家庭学習チェックと個別の対応を全12学級で実施した。 3 家庭学習チェックと個別の対応を11学級で実施した。 2 家庭学習チェックと個別の対応を10学級で実施した。 1 家庭学習チェックと個別の対応を9学級以下で実施した。 | 4 | 4 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価5割未満 | 3 | 家庭学習の内容を見直し、発達段階に応じて自分で学習内容を考え取り組む習慣を身に付ける。 | 家庭学習の意義についても説明があり、家庭での習慣化につながっている。今後は、家庭に求める協力内容を改善することで、家庭と協力して子供に習慣を身に付けることができると考える。 | B | 学年保護者会、学級保護者会、個人面談の実施方法を検討し、保護者と担任が習慣化について話をする機会を増やす。 |
| | | | | 4 全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。 3 全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。 2 全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。 1 全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。 | 3 | 4 児童アンケート「授業分かりやすい」9.5割以上 3 児童アンケート「授業分かりやすい」8.5割以上 2 児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上 1 児童アンケート「授業分かりやすい」8割未満 | 3 | 引き続き、分かりやすい質問、見やすく授業内容が整理された黒板づくり等を行う。 | 授業を参観して先生方が準備と工夫をして指導されていることが良く分かった。配慮が必要なお子さんに対してもよく対応しておられることが分かった。自己評価結果の内容を継続することで目標に達すると考える。 | A | 配慮が必要な児童への対応については、担任だけの努力にとどまらず、かかわる教員、支援員などと連絡を取りながら支援する。 |
| | | | | 4 道徳科の特質に即した授業を全12学級で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業を全11学級で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業を全10学級で実施した。 1 道徳科の特質に即した授業を全9学級で実施した。 | 4 | 4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。 | 3 | 今後も道徳の授業を通し、多様な見方や考え方を知り、受け止める経験を積み重ね、日常の生活に生かせるよう指導する。 | 道徳授業地区公開講座(書面開催)の説明を受け、子供たちが、普段の生活を振り返りよく考えていることが分かった。子供たちはテレビやゲームなどからたくさん情報が混在しあふれている。道徳の授業を介して生活を見つめるよい機会だと思う。 | A | 今後も授業中に他の児童の見方や考え方による機会をつくり、自分の生活をより深く振り返ることができるよう指導する。 |
| 豊かな心 | ◎互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。 | 道徳科の授業を要とし、児童の道徳的実践力を育成する。 児童が個々のよさを發揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。 | 校内研究会による研修を通して手立てを改善し、日常の授業に反映させる。 リーダーシップヒフォラーシップを理解させ、自己の成長をキャリアパスポートに記録させる。 | 4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。 | 4 | 4 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。 | 4 | 支え合い、よりよい関係をつくることをめあてとして児童に明確に示し、学級活動、たてわり班活動、クラブ・委員会活動を充実させる。 | たてわり班活動やきょうだい学年の活動の意義や様子の説明を受け、子供たちのかかわりを大切にした教育が行われていることが分かった。高学年児童に対して、できて当たり前ではなく、適切に、認める言葉掛けをこれからも行ってほしい。 | B | 来年度も児童同士のかかわりを大切にした特別活動を充実させるとともに、意欲につながる言葉掛けを児童に行う。 |
| | | | | 4 年6回以上実施した。 3 年4～5回実施した。 2 年3回実施した。 1 年1～2回実施した。 | 3 | 4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上 3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満。 2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満。 1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満。 | 3 | 「ふれあい月間」を契機に児童の言葉遣いと友達関係を築くことの両方を大切にしてほしい。困ったことを相談する身近な大人として、先生の存在は大きい。いじめについては担任だけでなく学校全体で迅速に対応するところがよい。 | B | 児童、教師の言葉遣いを定期的に振り返り、児童同士、児童と教師の良好な関係をさらに深めることができるようする。 | |
| | | | | 4 健康教育プログラム「いじめ総合対策」を活用していじめ未然防止に関する授業を実践する。 | 4 | 4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。 | 3 | 今後もグッドモーニング60分の取組を定期的に行い、早寝早起きの習慣を定着させていく。 | 子供たちが定期的に取組を報告することで、身の回りに実践している友達がいることを知り、生活習慣改善を意識すると思う。今後も続けてほしい。 | B | 「グッドモーニング60」の報告を集計し、今後の課題を明らかにしながら、健康教育を進める。 |
| | | | | 4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。 | 3 | 4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満 | 3 | 「弁当昼食の日」の取組を形骸化せず食育に関する資料を配布し啓発する。 | 家庭では伝えきれない、食べ物をいただきているという感謝の気持ちなども引き続き教えてほしい。食育により、将来バランスの取れた栄養を取れるように指導してほしい。また、保護者にも啓発することを続けてほしい。 | B | 引き続きゲストティーチャーを招き、給食と栄養についての授業を行う。「弁当昼食の日」に関する資料も配布する。 |
| 健やかな体 | ◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。 | 日常的な運動を通して体力を向上させる。 健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。 | 元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。 元気アップガイドブックを活用して健康教育を推進する。 | 4 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「意欲的な運動」の肯定的評価7割未満。 | 3 | 4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上。 3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上。 2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上。 1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満。 | 3 | 休み時間の外遊びを励行し、日常的に体を動かす機会を増やす。また、放課後の遊びの広場の利用も呼びかけ運動量を増やす。 | 学年を越えて休み時間や「遊びの広場」で体を動かす子供たちの姿が見られた。より積極的に多様な運動ができるよう遊具や道具の利用の制限(感染症対策)を見直してほしい。 | B | 遊びの広場における遊具や道具の利用に関しては、適宜、制限を見直し、多様な運動(遊び)ができるようする。 |
| | | | | 4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。 | 3 | 4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。 | 3 | 今後もグッドモーニング60分の取組を定期的に行い、早寝早起きの習慣を定着させていく。 | 子供たちが定期的に取組を報告することで、身の回りに実践している友達がいることを知り、生活習慣改善を意識すると思う。今後も続けてほしい。 | B | 「グッドモーニング60」の報告を集計し、今後の課題を明らかにしながら、健康教育を進める。 |
| | | | | 4 年3回食育の授業を行い、指導内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。 | 3 | 4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満 | 3 | 「弁当昼食の日」の取組を形骸化せず食育に関する資料を配布し啓発する。 | 家庭では伝えきれない、食べ物をいただきているという感謝の気持ちなども引き続き教えてほしい。食育により、将来バランスの取れた栄養を取れるように指導してほしい。また、保護者にも啓発することを続けてほしい。 | B | 引き続きゲストティーチャーを招き、給食と栄養についての授業を行う。「弁当昼食の日」に関する資料も配布する。 |
| | | | | 4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。 | 3 | 4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満 | 3 | 学校便りを毎月発行し、HPを1回更新している。月3回の更新を目指し、情報を発信する。 | 学校便り・学年便りによる情報発信も大切だが、実際に会って話したり、様子を見たりする機会を設ける方が何倍も学校の様子が伝わる。学校便りなどで情報発信は努力が十分感じられる。 | A | 学年保護者会、学級保護者会、個人面談の実施方法を検討し、保護者と担任が習慣化について話をする機会を増やす。 |
| 輝く未来 | ◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。 | 学校からの情報発信を積極的に行う。 外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。 | 地域の特色を生かしたゲストティーチャー(GT)を積極的に招聘する。 | 4 8月を除く11ヶ月で実施できた。 3 8月を除く10ヶ月で実施できた。 2 8月を除く9ヶ月で実施できた。 1 8月を除く8ヶ月で実施できた。 | 1 | 4 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「分かりやすい情報発信」の肯定的評価7割未満。 | 3 | 学校便りを毎月発行し、HPを1回更新している。月3回の更新を目指し、情報を発信する。 | 学校便り・学年便りによる情報発信も大切だが、実際に会って話したり、様子を見たりする機会を設ける方が何倍も学校の様子が伝わる。学校便りなどで情報発信は努力が十分感じられる。 | A | 学年保護者会、学級保護者会、個人面談の実施方法を検討し、保護者と担任が習慣化について話をする機会を増やす。 |
| | | | | 4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。 3 年2回以上GTを11学級が招聘した。 2 年2回以上GTを10学級が招聘した。 1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。 | 1 | 4 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答9割以上 3 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答8割以上 2 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答7割以上 1 学力調査「地域をよくするために」肯定的回答7割以下 | 1 | 地域学習や地域からゲストティーチャーを招聘する機会を増やし、地域への関心を高める必要がある。 | 生活科や社会の学習で地域を学習することで、まずは、地域のことをよく知ってほしい。そして、地域を大切にする子供を育てほしい。ゲストティーチャーを招いての学習も再開してほしい。 | C | 生活科や社会の学習で地域探検を充実させる。また、地域に残る伝統行事の学習も充実させる。 |
| | | | | 4 セーフティ教室等の指導内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。 | 2 | 4 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割未満 | 3 | セーフティ教室実施後、指導内容を保護者に伝えることが十分にできていない。学年だより学級だよりで紹介する。 | 児童が学ぶだけでなく、保護者も学ぶ機会を作ることで効果的な指導ができるのではないか。 | D | 保護者も参加できるセーフティ教室を実施するなど保護者と児童が共に学ぶ機会を作る。 |

| | | | | | | | | |
|--------|---------------------------------|------|-------------|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | 児童が願いをもって生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校 | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | 「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこ考える子 】 | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | 「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師 | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|-----------------------------------|---|--|----|---|----|--|---------|--|----------|
| 確かな学力 | 基礎・基本を大切にし、分かる授業の実践に努める。(休校時の学習内容の定着・授業改善・学習指導要領の完全実施) | 読み書き、四則計算の力を定着させる。 | 授業、ベーシックドリル、eラーニング、日常の小テスト、力試し、補教教室宿題、家庭学習、ラボ等 | 4 漢字、計算の定着を85%以上図った。 3 漢字、計算の定着を80%以上図った。 2 漢字、計算の定着を75%以上図った。 1 漢字、計算の定着を75%未満。 | 4 | 4 全国学力国・算平均 -1.5pt 3 全国学力国・算平均 -2.0pt 2 全国学力国・算平均 -3.0pt 1 全国学力国・算平均 -3.0pt未満 | 4 | 6年全国2教科平均+1.6。次年度以降も続くよう、指導力向上を目指していきたい。 | A | 基礎基本の学習の徹底を継続するとともに、個別最適な学びをさらに推進していく。 | |
| | | | | 4 読書計画に基づいての実施率90%以上 3 読書計画に基づいての実施率80%以上 2 読書計画に基づいての実施率70%以上 1 読書計画に基づいての実施率70%未満 | | 4 目標冊数・ページ数の達成率95%以上 3 目標冊数・ページ数の達成率87%以上 2 目標冊数・ページ数の達成率80%以上 1 目標冊数・ページ数の達成率80%未満 | | 取組・成果の評価とともに、わずかに4に達しなかった。次年度は達成できるよう意識付けを図る。 | | | |
| | | | | 4 各学年家庭学習実施率90%以上 3 各学年家庭学習実施率85%以上 2 各学年家庭学習実施率80%以上 1 各学年家庭学習実施率80%未満 | | 4 授業は分かりやすい97%以上 3 授業は分かりやすい95%以上 2 授業は分かりやすい90%以上 1 授業は分かりやすい90%未満 | | 授業力向上アドバイザー事業の成果で、高評価であった。次年度も取組を継続していく。 | | | |
| | | 学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。 | | 4 児童の積極的参加を95%にする。 3 児童の積極的参加を90%にする。 2 児童の積極的参加を85%にする。 1 児童の積極的参加を80%にする。 | 4 | 4 相談できる先生がいる95%以上 3 相談できる先生がいる90%以上 2 相談できる先生がいる85%以上 1 相談できる先生がいる85%未満 | 3 | 相談できる先生が95%未満は課題。次年度は95%達成を実現できるよう児童理解に努める。 | A | 児童理解を深めると同時に、相談しやすくなるような関係性を構築していく。 | |
| | | 教室・学習環境を見直して、すべての児童にやさしい学校・学級にする。 | 4 市UDチェック45項目できている。 3 市UDチェック38項目できている。 2 市UDチェック37項目できている。 1 市UDチェック37項目未満できている。 | 4 落ち着いて生活できている93%以上 3 落ち着いて生活できている88%以上 2 落ち着いて生活できている83%以上 1 落ち着いて生活できている83%未満 | | UDについての意識を更に高め、児童にとってより生活しやすい環境づくりに努めていく。 | | | | | |
| | | | 4 楽しくする工夫をしている90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満 | 4 学校生活は楽しい95%以上 3 学校生活は楽しい90%以上 2 学校生活は楽しい85%以上 1 学校生活は楽しい85%未満 | | コロナ禍の中でも工夫すれば楽しく生活できることが分かった。次年度も継続していく。 | | | | | |
| | | 生命を尊重し互いに認め合える、豊かな心を育てる。 | 様々な体験を通して、心の交流を(児童・教師)図る。 教室・学習環境を見直して、すべての児童にやさしい学校・学級にする。 学校生活をより楽しいものにする。 | 4 児童の基礎体力の向上を図る。 | 3 | 4 元気アップGBの活用週2回以上 3 元気アップGBの活用週1.5回以上 2 元気アップGBの活用週1回以上 1 元気アップGBの活用週1回未満 | 3 | 体力が付いてきている92%以上 体力が付いてきている85%~91% 体力が付いてきている80%~84% 体力が付いてきている80%未満 | B | 元気アップガイドブックのさらなる活用と、体育学習、外遊びの充実を図り、体力向上を目指す。 | |
| | | | | 担任の声かけ 視覚的な掲示 食のバランス意識 残さないおにぎり換算 | | 4 週のうち完食が4回 3 週のうち完食が3回 2 週のうち完食が2回 1 週のうち完食が1回 | | 評価は3だが、給食残菜率は減少傾向にある。SDGsとからめてさらに取り組んでいく。 | | | |
| | | | | 自分の命は自分で守る。 | | 4 通年での新生活様式の確立 3 校庭での遊びでの配慮 2 自己の健康管理と他への配慮事項 1 いつでも、どこでも実践するよう指導 | | けが病気は前年度とほぼ同じ。微増している「心が不安定な児童への対応」を検討していく。 | | | |
| 輝く未来 | 自分の将来を見つめ、自らの生き方を考える力を育てる。 | 将来の夢を児童にもたらせる。 | 職場体験 マイキャリアパスポート 家族の職業について理解を深めさせる | 4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満 | 4 | 4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満 | 4 | 次年度も、マイキャリアパスポートを活用して、将来的自分について考えていくようにする。 | A | 自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育を推進する。 | |
| | | | | 4 90%以上の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 3 86%~90%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 2 71%~85%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 1 70%以下の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした | | 4 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた96%~100% 3 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた91%~95% 2 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%~90% 1 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%未満 | | 早寝・早起きは94%達成。次年度は95%超を目指してGM60分を推進していく。 | | | |

| | | | | | | |
|--------|---|------|-------------|--|----------------------|----------------------|
| 学校教育目標 | ○やさしく(徳) ○強く(体) ○よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子 | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○生き生きと学び、達成感を味わえる学校 | ○安心して子供を預けられる信頼できる学校 | ○働きがいのある学校(教職員にとって)□ |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○心身ともに健康な子 | ○主体的・対話的で深い学びのできる子 | ○互いに認め合い高め合う子 |
| | | | 【目指す教師像】 | ○教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師 | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度の改善策 |
|-------|---|--|--|---------------------|----|------------------------------|---|--|---|----|---------|
| 確かな学力 | 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協同的な学び」の実現を目指す。 | 授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協同的な学びを目指す指導への挑戦 | ・評価を明確にした学習の展開 ・児童の主体的な学びを実現 ・教科横断的、問題解決的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践 | 4 14項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答 | 4 授業に主体的に参加していると感じた児童は95%だった。前回より1ポイント向上した。子供たちは、一生懸命学習に取り組んでいることが分かる。教員の評価も、0.7ポイント向上した。学力調査を基にした授業改善プランの作成を夏休みに行い、2学期に実践したことで、教師の評価も高まったことが分かる。 | 学力調査の結果があまりよくないと感じているが、子供たちがすんで学習に取り組んでいることが分かり安心した。まずは意欲が大切である。 | A 引き続き、児童の主体的な学習を進めるため、学年ごとの具体的なイメージを共有する。また、児童の様子に合った、個別最適な学習、仲間と協力して行う協同的な学習について推進していく。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 | | | | | |
| | | 基礎的基本的な学力を身に付けるための取組の提案と実施 | ・朝学習の自主的な取組習慣化 ・読書週間の取組の工夫 ・学習スタンダードの取組の徹底 ・家庭学習の内容の工夫と習慣付け | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が身に付いたと回答 | 3 朝自習や家庭学習の習慣は身に付いたと感じた児童は、82.5%だった。前回より1.6ポイント向上した。朝自習は定着しているが、家庭学習が不十分な児童が立つ。教師の評価は、0.4ポイントの向上したが、学習習慣の定着について、一部の児童の指導が難しいことが分かる。 | 子供たちは身に付いたと感じているが、市のアンケートによると、スマートフォンでゲームをする時間が長い。家庭の協力が必要である。 | B 朝自習の学習内容を年間で明確にし、更に自主的に取り組めるように工夫していく。また、家庭学習においても、スタンダードを作るとともに、高学年では児童の主体的な課題設定にも取り組みたい。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が身に付いたと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が身に付いたと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が身に付いたと回答 | | | | | |
| | | 特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進 | ・個人に応じた指導及びUDを意識した学習展開 ・UD意識した学習環境の整備 ・困り感をもつ児童への対応 ・保護者との共通理解 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が授業が分かると回答 | 4 授業が分かりやすいと感じた児童は、97.5%だった。前回より3.2ポイント向上した。教員の評価は0.2ポイントの向上に留まっている。子供たちの学びの意欲に支えられた結果となった。教師との信頼関係はよいことが感じられる。困り感をもつ児童に対する指導に迷っていることが分かる。 | 先生が工夫してくれていることが分かる。メリハリのある、楽しい授業をさらに工夫してほしい。 | A 子供たちの主体的な学びを中心とした授業について、教師の学び合いの場を設けていく。そこで、困り感のある児童への個別の指導法やユニバーサルデザインの指導法について検討していきたい。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が授業が分かると回答 | | | | | |
| 豊かな心 | 自分も仲間も大切にし、お互いのよさを認め合い、相手を思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己の生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。 | 道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成 | ・よさを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営 ・価値を明確にした授業と児童の変容の見取り(評価の工夫) ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に関連付けた指導 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が大切さを学ぶことができたと回答 | 4 自分や友達を大切にしたと感じた児童は99.2%だった。前回より1.1ポイント向上した。教員の評価は、0.5ポイント向上している。ふわふわ言葉月間やふれあい月間での取組に手応えを感じていることが分かる。また、学級会での話合い活動も効果を高めているように感じられる。 | 自分も友達も大切にしていると感じている児童が99%もいることは素晴らしい。 | A 道徳の学習の意義を明確にし、子供たち自らが自分と向き合い、行動を振り返ることでいる時間となるよう、学び合っていきたい。日常の言葉遣い、仲間とのよりよい間わりを高めていきたい。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 | | | | | |
| | | いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く対応し、安心して通える学校運営の実現 | ・人権教育プログラムの活用 ・生活指導タスク会での情報共有と素早い対応、報達相の徹底 ・いじめアンケートの確実な実施と日常からの未然防止と早期対応 ・ふれあい月間の取組 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が判断できたと回答 | 4 よいこと悪いことの判断ができたと感じた児童は96.2%だった。前回より4.8ポイント向上した。教員の評価は、0.3ポイント向上した。生活指導タスク会での情報交換や、児童のトラブルについての対応を全体で共有していったことで、児童も教師の意識が向上したことが感じられる。 | 善悪の判断が自分でできると感じている児童の多さに驚いた。実際に判断できているかは別にして、自己指導能力の高まりをこれからも目指してほしい。 | A 児童がより楽しく学校生活を送れるように、自ら考え、判断して行動できるよう、具体的な指導を行。特に学級内の自己有用感が高められるように、役に立っている、支え合っていることを実感できる取組を進めていきたい。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が判断できたと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が判断できたと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が判断できたと回答 | | | | | |
| | | 人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める実践への取組 | ・ゲストティーチャーによる学び ・実践、体験的活動の充実 ・栽培体験活動の実施 ・縦割り班活動の充実 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答 | 3 縦割り班活動や栽培活動は楽しいと感じた児童は87.5%だった。前回より5.6ポイント減少した。原因は、コロナウイルス感染防止で縦割り班活動が行えなかったこと、栽培活動も夏まで終了したことだと考えられる。教員の評価も、0.1ポイント減少した。 | コロナウイルス感染防止の対応で仕方ないと思う。今後は感染防止対策も緩やかに改善する方向だと思うので、関わる機会を増やしてほしい。 | C 児童にとって、外部の方との交流は、学ぶ意欲を高め、学びの深まりにもつながった。次年度は、地域の方との交流を再開していきたい。また、縦割り班活動や栽培活動も大切な体験活動として力を入れていきたい。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 | | | | | |
| 健やかな体 | 健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践し、心身ともに健康でたくましい児童の育成を目指す。 | 心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成 | ・グッドモーニング60分の取組 ・いきいきカードの取組 ・安全、防災教育の確実な実施 ・チャレンジ精神、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が安全健康についていかすと回答 | 3 安全や健康について学んだことを生活の中で活かしていると感じた児童は88.3%だった。前回より1.6ポイント減少した。教員の評価も、0.1ポイント減少した。2学期におけるグッドモーニング60分の取組や、安全や防犯に関する取組が不十分だったことが原因と考えられる。 | スマートフォンを使ったゲームやSNSの利用に関することは、家庭がしっかりと管理している。ただ、親の関心が心配である。良好な関係をつくると感じられる。 | C 規則正しい生活習慣を身に付けるためのグッドモーニング60分の取組を工夫して継続していく。安全についても、校庭や地域での遊び方を考えさせたり、SNSの利用について定期的に確認したりしていく。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が安全健康についていかすと回答 | | | | | |
| | | 一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む | ・めあてが明確な学習の展開 ・元気アップガイドブックを利用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・ミニ研修会の実施と活用 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 90%以上の児童が体力付いていると回答 | 3 体力がついていると感じた児童は88.4%だった。前回より6.7ポイント向上した。教員の評価も0.7ポイント向上した。ミニ研修会の成果や、めあてを明確にした指導を進めることで、児童の体力が向上の意識が高まっていると考えられる。 | 持久走や縄跳びの取組ができるようになってよかった。家にばかりこもっていないで、外で体を動かす機会を増やしてほしい。 | A 体力運動能力調査の結果から、元気アップガイドブックを活用する取組や、走一歩の見直しを行ったり、体育朝会の指導を工夫したりして、子供たちが意欲的に体を動かす環境づくりに努める。 | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 80%~90%未満の児童が体力付いていると回答 | | | | | |
| | | | | 2 2項目は取り組むことができた。 | 2 | 70%~80%未満の児童が体力付いていると回答 | | | | | |
| | | | | 1 1項目しか取り組めなかった。 | 1 | 70%未満の児童が体力付いていると回答 | | | | | |
| | | 食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組 | ・お弁当の日に自ら考え取り組む ・保健指導から、自分の体についての学び ・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組 | 4 4項目全て取り組むことができた。 | 4 | 80%以上の児童がお弁当の日工夫できただと回答 | 3 お弁当の日を工夫したと感じた児童は82.2%だった。前回より0.5ポイント減少した。教員の評価は0.7ポイント向上した。家庭の協力を得て取り組んでいることがよい。学校でも残業が減らせるような取組を頑張ってほしい。市の栄養士さんにも指導を頑張ってほしい。 | C 食の大切さについては、今後もお弁当日の取組以外にも取り組んでいく必要がある。市の栄養士の指導等を検討したい。 | | | |
| | | | | 3 3項目は取り組むことができた | 3 | 75%~80%未満の児童がお弁当の日工夫できただと回答 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

令和4年度

昭島市立拝島第二小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

| | | | | |
|--------|---|------|-------------|---|
| 学校教育目標 | ○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体) | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これから社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～ |
| | | | 【目指す教師像】 | ○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|--|--|--|----|--|----|--|--|----|--|
| 確かな学力 | (知) 自ら学び考え判断し、 協働して問題を解決する ことができる児童の育成 | 「拝二小授業力スタンダード 20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。 言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。 学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。 | 日々の授業を充実させ、学力調査(プレ・ポストテスト)のAB層を引き上げ、CD層の引き下げを図る。 指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。 昭島市民科、各教科、特別活動、特別な教科道徳全体を通じて児童がセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する。 | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「3%のA層の増加と5%のD層の減少 3 「2%のA層の増加と4%のD層の減少 2 「1%のA層の増加と3%のD層の減少 1 「0%以下のA層の増加とD層の減少 | 4 | 全国学力学習状況調査ホストテストにおいて、算数・国語ともにD層児童減少とA層児童増加があり、授業改善推進拠点校の取組の成果が顕著だった。 | 全国学力調査の結果分析に基づく授業改善等の取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | B | 全国学力調査は、知識のみで解くことができる問題が多い中で、記述式の問題に本校児童が特に正答率が高いことは、今年度、授業改善を各学年取り組んできた成果であると考えられる。次年度もその取組を継続するとともに、更なる授業改善を進め。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満 | 4 | 取組指標において教職員の授業改善意識の向上が見られた。(7.1%増加) 授業改善プランに沿って学年で共同して教材研究に取り組んだ成果が表れた。 | 指導計画のPDCAサイクルを図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | A | 児童の思考力を一段高めていく高めていくために、単元全体を見通して、論理的思考力を高めていくような学習場面を引き続き設定していく。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満 | 4 | 毎時間の授業で学習感想を記述させて、学習の振り返る時間の中でセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | 昭島市民科、各教科の学習において、学習の振り返る時間の中でセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | B | 児童の評価(成果指標)で+3.2%の増加にとどめたことは、予想よりも伸びてあった。学習の振り返り方の指導をより生活や社会に生かしていく意識につなげていくことができるよう指導を改善していく必要がある。 |
| 豊かな心 | (情) 自らのよさを見つめ、 他者を尊重し、共により よく生きようとする児童 の育成 | すべての児童が安心して登校できる学校にする。 学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。 学校の決まりを守る風土を創り上げる。 | 児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。 「拝二小学校力スタンダードver.2」を基に、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。 学校の決まりの意味・意義を理解させる。 | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「いじめ・暴力の未解決0件 3 「いじめ・暴力の未解決1件 2 「いじめ・暴力の未解決2件 1 「いじめ・暴力の未解決3件 | 4 | 法令上のいじめ件数は依然、あるものの、社会通念上のいじめにおいて未解決なものはない。一方、児童が複数いるため改善が必要である。 | 未解決のいじめが0になるように努力を続けてほしい。 | B | いじめ調査をした際、気になる児童に対して即座に聞き取り調査を実施して、早期発見、早期解決に取り組んできた成果であると考える。今後も、アンケート調査のみに頼ることなく、児童と休み時間に遊ぶなどの機会を増やし、問題の早期解決を心掛けしていく。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満 | 4 | 「拝二小学校力スタンダードVer.2」を活用した各学級の振り返りを基に、児童が自分分析を的確に行い、自らの生活をよりしていこうとする機会を維持していく。また、その場の内で話し合って終わることなく、日々、自分たちが話し合って決めたことを確認しながら生活していく。 | 「拝二小学校力スタンダードver.2」を引き続き継続し、児童が自分分析を的確に行い、自らの生活をよりしていこうとする機会を維持していく。また、その場の内で話し合って終わることなく、日々、自分たちが話し合って決めたことを確認しながら生活していく。 | B | 学級力スタンダードver.2を引き続き継続し、児童が自分分析を的確に行い、自らの生活をよりしていこうとする機会を維持していく。また、その場の内で話し合って終わることなく、日々、自分たちが話し合って決めたことを確認しながら生活していく。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 「学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 「学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 「学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満 | 4 | 「学校の決まりを守っている」と回答した児童が増加した。(5.5%増加) | 日常の生活指導の中で、学校の決まりの意味・意義を繰り返し、指導する取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | A | 2学期初め、廊下を走る児童が多く、教師が指導するところがあった。教師の指導と児童会から全校に呼び掛けたことで減らしたが、引き続き指導していく。児童会が、学校のきまりだけではなく、言葉遣いをよくしていくこと、児童自ら行動している様子が見られるため、今後も支援していく。 |
| 健やかな体 | (体) 自らすすんで心と体を きたえ、たくましく生きる 児童の育成 | 拝二小版スタンダード体育編 を共通実践し、体育科の授業充実を図る。 児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。 家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。 | 拝二小版授業力スタンダード 体育編ver.2を共通実践し、 体育科の授業充実を図る。 体力調査(プレ・ポストテスト) の結果に基づく課題分析・解 決策の共通理解と共に実践 をする。 | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 「運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 「運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 「運動が好きになったと実感できる児童50%未満 | 4 | 「運動が好き」と回答する児童が増加した。(9.3%増加) | 児童の記録が掲示してあり、意欲向上の観点からもよかったです。 | A | 運動が好き」と回答する児童が大幅に増加したことは、体力テストの結果とも関連があると考えられる。また、多くの児童と教職員が休憩時間に外で遊ぶことと、本校の良い点があつたため、今後も、継続していく。また、拝二小版スタンダード体育編の改良と教職員に対して再度、徹底を図る。(年度初めに研修を実施する。) |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 3 | 4 「Tスコアを都平均以上にする。 3 「Tスコアを都平均にする。 2 「Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 「Tスコアを都平均より-2%にとどめる。 | 4 | 学校全体では、依然高い記録を維持しているが、「反復横跳び」に記録が低下傾向にある。(4年生・6年生女子) | 体力調査結果に基づく、体力向上の取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | A | コオーディネーショントレーニングを通して改善を図るとともに、年度初めに、全教職員に「拝二小体育スタンダードの履歴」徹底する。そのことによって、児童の体力をより高い水準に引き上げていく。また、朝のラジオ体操を休み時間で活用して、敏捷性を高める場の設置を体育部中心に行う。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「生活改善を実感する児童70%以上 3 「生活改善を実感する児童60%以上 2 「生活改善を実感する児童50%以上 1 「生活改善を実感する児童50%未満 | 4 | 大きな数値の変化はないが教職員の意識が低いことに課題がある。 | 「グッドモーニング60分」の実践を通して生活習慣の定着に向けた取組に対し、肯定的な評価をいたいた。 | B | 昭島市の保健師と体育部を中心にグッドモーニング60分を通して、児童の生活習慣改善に取り組んでいた。しかし、なかなか成果上がっていない。よって、一人一人の教員により高い意識を持ってもらうために、研修をし、児童の生活改善の意義や効果、指導の在り方を伝達していく。 |
| 輝く未来 | (意) 自らすすんで挑戦し、 最後までやり遂げること ができる児童の育成 | 昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。 ●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。(感染状況による) | 地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。 ●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。(感染状況による) | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「地域に愛着をもつ児童70%以上 3 「地域に愛着をもつ児童60%以上 2 「地域に愛着をもつ児童50%以上 1 「地域に愛着をもつ児童50%未満 | 4 | 全国学力学習状況調査及び、東京都児童・生徒の学力向上を図るために実施の児童の意識調査の結果通り、本校児童の地域に対する愛着度は高い。(8%増加、また、全国・東京都と比較しても大幅に高い) | 市民図書館(エンシス)のより一層の活用をしてほしい。 | B | 本校は、地域社会を担っていく児童の育成を図るために、年3回の市民科週間に(総合的な学習の時間に)重点的に取り組むを実施してきた。そのことが地域に愛着をもつ児童が多い要因と考える。今後もこの取り組みを継続するとともに、地域の方々に昭島市民科の取組を見ていただく機会を維持していく。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「社会貢献しようと考える児童70%以上 3 「社会貢献をしようと考える児童60%以上 2 「社会貢献をしようと考える児童50%以上 1 「社会貢献をしようと考える児童50%未満 | 4 | 取組指標において、教職員の意識が高い。(8.3%の増加) また東京都児童・生徒の学力向上を図るために実施の調査においても同様に全国・東京都の平均を大きく上回っている。 | 昭島市民科の学習によるSDGsの取組や地域人材を活用した体験的な活動に対し、肯定的な評価をいたいた。 | B | 各学期、年間3回設定した市民科週間に実施によって、児童の「地域をよりよくしていく」とする意識が芽生えつつある。より一層社会貢献しようとする児童を育成するために、昭島市民科の年間指導期計画の修正を行う。 |
| | | | | 4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。 | 4 | 4 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満 | 3 | 取組指標において教職員の意識が低下した。(3.2%低下) また、成果指標においても、児童の意識が低下した。(5.9%の減少) | 「将来への夢や希望をもつ」とする児童の減少に対して、教職員は重く受け止める必要がある。自殺予防教育の徹底やキャリア教育の充実、昭島市民科を通して、自らがより社会を創っていく大切な存在であることを意識付けていく。 | A | 「将来への夢や希望をもつ」とする児童の減少に対して、教職員は重く受け止める必要がある。自殺予防教育の徹底やキャリア教育の充実、昭島市民科を通して、自らがより社会を創っていく大切な存在であることを意識付けていく。 |

| | | | | |
|--------|-----------------------|------|-------------|---|
| 学校教育目標 | ○かしこ ○やさしく ○つよく | ビジョン | 【目指す学校像】 | ・子供にとって安全・安心の学校・保護者や地域とともに子供を育てる学校・教職員が互いに高め合う学校 |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ・よく考え工夫する児童・相手のことを考え、助け合う児童・明るく元気な児童 |
| | | | 【目指す教師像】 | ・質の高い指導を創造できる教師・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的な方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|---|--|--|--|----|--|----|--|---------|---|----------|
| 確かな学力 | 学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます | 学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。 | ①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用 | 4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった | 4 | 4 学力調査市平均+5P以上 3 学力調査市平均OP以上 2 学力調査市平均OP未満 1 学力調査市平均-5P未満 | 4 | 全国学力・学習状況調査において、全教科で市平均+5P以上を達成することができた。各方策を予定通り実施できた。 | A | 全国だけでなく、都の調査結果についても精査し分析し、学力の維持向上に努める。 | |
| | | 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。 | ①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用 | 4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。 | 3 | 4 児童アンケートで「分かりやすい」が9割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が7割未満 | 4 | 全教員が昭島市のユニバーサルデザインの冊子を基に、誰にとっても、やさしい教室環境、分かりやすい授業を心掛けた。7月に行つた、児童の学校評価では、「学校の授業は分かりやすい」の肯定的評価が96%であった。 | A | ユニバーサルデザインについては、教員が理解を深めていくように、引き続き研修などを実施する。 | |
| | | タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進 | ①プログラミング学習に関わる授業(年5回以上) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③オンライン授業(年3回) | 4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 | 4 | 4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が9割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が8割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割未満 | 4 | 1学期に行つたオンライン授業では、全ての学年でプログラミング学習を行つた。児童の意識調査では、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うこと」に対する肯定的評価が94%であった。 | A | 次年度も引き続きオンライン授業やプログラミング学習等、ICT教育の推進を図る。 | |
| 豊かな心 | 学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します | 児童の自己肯定感を高め、個々の良さを發揮できるように、学級活動を実施する。 | ①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUテストの活用 | 4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行つた 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行つた 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行つた 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行つた | 4 | 4 QUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 QUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 QUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 QUの結果で安定感のある学級が1割未満 | 4 | ハイパーQUテストの結果、安定感のある親和的な学級が全体の5割以上との結果が出た。学校全体も落ち着いた雰囲気で、児童の姿勢がよくなり、挨拶もよくできるようになつた。 | A | 取組を引き続き実施していくとともに、縦割り班などの異学年の特別活動を充実させていく。 | |
| | | 教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。 | ①道徳授業地区公開講座 ②評議に關わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳 | 4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した | 4 | 4 いじめ・不登校の出現回数昨年度比2割以上減少 3 いじめ・不登校の出現回数昨年度比1割以上減少 2 いじめ・不登校の出現回数昨年度比変化なし 1 いじめ・不登校の出現回数昨年度比増加 | 4 | 令和3年度は、いじめ9件・不登校6名で計15件だった。令和4年度はいじめ3件・不登校5名で計8件となっており、前年度比4割以上の減少を達成することができた。 | A | 毎月の報告を確認し、社会通念上のいじめに対しては、対策委員会を開き、迅速に対応しているので、今後も継続していく。 | |
| | | 学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。 | ①学校図書館の利用(週1回) ②読書時間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書の購入 | 4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 | 3 | 4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満 | 3 | 児童一人当たりの貸出冊数は33冊となっている。低学年児童がよく本を借りて読んでおり、1~4年生の94%が20冊以上の本を借りた。 | B | 取組を引き続き実施していくとともに、高学年児童の読書習慣の定着を目指す。 | |
| 健やかな体 | 学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます | 運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。 | ①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回) ④本領発揮プログラムの活用 | 4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行つた 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行つた 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行つた 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行つた | 4 | 4 調査結果が昨年比+5ポイント以上 3 調査結果が昨年比+5ポイント 2 調査結果が昨年比-5ポイント以内 1 調査結果が昨年比-5ポイント未満 | 2 | 今年度の体力テストの結果、体力合計点は昨年度比-3.4ポイントであった。本領発揮プログラムの活用や様々な対策を行つたにも関わらず前年度よりも低下してしまつた。コロナ禍の影響が考えられる。 | C | 休み時間の外遊び奨励や体育の活動時間の確保などの改善策を実施し、児童の体力増進を図る。 | |
| | | 日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。 | ①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回) | 4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行つた 3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行つた 2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行つた 1 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行つた | 4 | 4 9割以上の児童が目標を達成している 3 8割以上の児童が目標を達成している 2 7割以上の児童が目標を達成している 1 7割未満の児童が目標を達成している | 1 | 今年度の体力テストでは学校全体として数値の下降が見られた。目標達成に関しては多くの児童が自分の立てた目標や期待値を下回っている。 | D | 児童の取組目標を見直すとともに、成果に関わらず学校体制として外遊びを励行し、室外で動く時間を確保していく。 | |
| | | 安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。 | ①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日(年11回) | 4 全ての教員が、安全指導を計画的に行つた 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行つた 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行つた 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行つた | 4 | 4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下 | 4 | 年度当初よりコロナ対応の避難訓練案と通常の案を作成させ、取り組みを継続できている。令和4年7月の学校評価では、「学校はお子様の安全や健康について考える機会を提供している。」に対し、89%の保護者から肯定的な返答があった。 | A | 今年度は警察と連携して不審者対応訓練を行い、撮影した映像を基に教員間での振り返りを行つた。来年度につなげていく。 | |
| 輝く未来 | 学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます | 話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。 | ①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用 | 4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行つた 3 8割以上の学級担任が、学級会活動を10回以上行つた 2 7割以上の学級担任が、学級会活動を10回以上行つた 1 7割未満の学級担任が、学級会活動を10回以上行つた | 4 | 4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 3 8割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 2 7割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が7割以下 | 3 | 4月当初に比べ、「児童間のトラブルの出現が減少している」との返答とともに、「変わらない」との返答があり、全ての学級での減少とはならなかつた。 | B | 児童間トラブルは確実に減少しているが、学級によっては不安定な様子を見せる児童があるので、学校体制でのフォローを行つていく。 | |
| | | 教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。 | ①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成 | 4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 8割以上未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 7割以上の学年・教員が交流体験を実施した 1 7割未満の学年・教員が交流体験を実施した | 2 | 4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下 | 4 | 感染対策に配慮しながら、各学年ともゲストティーチャーを招聘したり、近くの施設に赴きながらして学習を進めてきた。7月に行つた学校評価では、保護者の肯定的評価が90%であった。 | A | 外部人材との交流体験を十分に行うことができた。来年度も引き続き行えるよう、今年度中に計画を立てる。 | |
| | | 保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。 | ①PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 ②PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 ③PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 ④PTAや地域との連携は年2回以下だった。 | 4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。 | 3 | 4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下 | 4 | 5月の運動会はPTAや地域の方の協力のもと、滞りなく実施することができた。9月と1月のあいさつ運動なども両者で協力して行つた。7月に行つた学校評価では、保護者の肯定的評価が87%であった。 | A | 引き続き、PTAや地域の方々と連携を図りながら行事活動を実施していく。 | |

令和4年度

昭島市立昭和中学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

| | | | | | | | |
|--------|--|-------------------------------------|---|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒 | 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】 | 生徒が「①進歩や成長を実感、②自己実現を図る、③夢や希望を実現する、④安心・安全に生活できる」場 | | | | |
| | | | ①意欲的、主体的に取り組む、②あいさつができる、思いやりがある、③自らの力で進路を切り拓く、④心身ともに健康である | | | | |
| | | | ①生徒一人一人を大切にする、②高い指導力をもつ、③信頼される、④組織の一員として職務にあたる、⑤昭和中を愛する | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|---|---|---|---|----|---|----|--|--|----|---|
| 確かな学力 | 基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。 | 振り返りの活用と指導と評価の一体化による学力の定着、IC Tを活用した授業改善 | 学習目標の提示と振り返りの実施 授業指導におけるタブレット端末の活用促進 | 4 全教員がタブレット端末を活用した。 3 90%以上の教員がタブレット端末を活用した。 2 80%以上の教員がタブレット端末を活用した。 1 タブレット端末を活用した教員が80%未満。 | 4 | 4 授業は「とても分かりやすい」と答える生徒が最も多い 3 授業は「分かりやすい」と答える生徒が最も多い 2 授業は「分かりにくい」と答える生徒が最も多い 1 授業は「とても分かりにくい」と答える生徒が最も多い | 3 | タブレット端末の活用は全教科で図られてきた。校内IC T活用研修が有効であった。 | 80.6%の保護者が「授業を通して学力が見についている」と評価。昨年度比6.3%増。 | B | 生徒一人ひとりの学びの保障を図るタブレット端末の活用について、研究・研修を深めていく。 |
| | | | 思考力・判断力・表現力の育成を図るために指導法の工夫と評価の充実 | 4 全教員が意識して授業を実践した。 3 意識して授業実践した教員が80%以上 2 意識して授業実践した教員が70%以上 1 意識して授業実践した教員は70%未満 | 4 | 4 話し合い、発表に「よく参加している」と答える生徒が最も多い 3 話し合い、発表に「参加している」と答える生徒が最も多い 2 話し合い、発表に「あまり参加していない」と答える生徒が最も多い 1 話し合い、発表に「参加していない」と答える生徒が最も多い | 3 | 学習指導要領の趣旨の理解を深め、授業の工夫に取り組んだ。今後も取組を継続していく。 | 76.2%の保護者が「授業に意欲的に参加できる工夫がある」と評価。昨年度比5.4%増。 | B | 生徒の思考力・判断力・表現力の育成に向け、IC Tを活用も含めた指導法の工夫が課題。 |
| | | | 主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着 | 4 学習習慣定着のための指導を全教員が実施した。 3 80%程度の教員が学習習慣定着のための指導を実施した。 2 70%程度の教員が学習習慣定着のための指導を実施した。 1 学習習慣定着のための指導を実施した教員は70%未満 | 4 | 4 家庭学習の時間が「4時間以上」が最も多い 3 家庭学習の時間が「4時間未満」が最も多い 2 家庭学習の時間が「3時間未満」が最も多い 1 家庭学習の時間が「2時間未満」が最も多い | 1 | 定期テストのある月は家庭学習時間の平均が2時間を超える。その定着が課題。 | 「子供は家庭学習を習慣化している」と感じる保護者とそう感じていない保護者がほぼ同数であった。 | B | 主体的に生活する生徒の育成上の課題として、学習習慣の確立について、指導していく。 |
| 豊かな心 | 全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるために基礎となる豊かな人間性を育む。 | 全教育活動を通じた生徒の自己肯定感と自尊感情の育成 | 豊かな人間関係を育む学級経営、主体的自立的生徒会活動と生活のきまりの見直し | 4 全教員が意識して指導を実践した。 3 意識して指導した教員が80%以上 2 意識して指導した教員が70%以上 1 意識して指導した教員は70%未満 | 4 | 4 学校生活を「楽しく過ごしている」生徒が最も多い 3 学校生活を「ほぼ楽しく過ごしている」生徒が最も多い 2 学校生活を「あまり楽しく過ごしていない」生徒が最も多い 1 学校生活を「楽しく過ごしていない」生徒が最も多い | 4 | 学校行事や部活動が実施でき、生徒活動の場が広がった。生活のきまり見直しに成果、取組継続 | 96.1%の保護者が「子供は学校生活を楽しく過ごしている」と評価。昨年度比3.0%増。 | B | 学校生活の楽しさの要素を分析し、今後の学校行事や特別活動、部活動等のあり方を検討。 |
| | | | 「考える・議論する・体験する道徳科」の計画的な指導と適切な評価の実施 | 4 道徳科の趣旨に則り、全教員が意識して指導した。 3 意識して指導した教員が80%程度 2 意識して指導した教員が70%程度 1 意識して指導した教員は70%未満 | 4 | 4 思いやりの心をもって行動していると「とても思う」生徒が最も多い 3 思いやりの心をもって行動していると「思う」生徒が最も多い 2 思いやりの心をもって行動していると「あまり思わない」生徒が最も多い 1 思いやりの心をもって行動していると「思わない」生徒が最も多い | 3 | 道徳科の趣旨について、教員の理解が深まった。話し合いを大切にした授業指導を工夫。 | 93.7%の保護者が「子供は思いやりの心をもって行動している」と評価。昨年度比2.8%増。 | B | 道徳科学習指導要領の趣旨を生かして指導法を工夫し、指導計画の蓄積を図る。 |
| | | | いじめ問題への適切な対応と自立支援を基盤とした個に応じた不登校対策の充実 | 4 いじめ問題にすぐに対応し、早期解決を図った。 3 いじめ問題にすぐに対応したが、対応は継続している。 2 いじめ問題の対応が遅れたが、解決できた。 1 いじめ問題の対応が遅れ、解決できていない。 | 3 | 4 落ち着いて安心して学校生活が「できる」と答える生徒が最も多い 3 落ち着いて安心して学校生活が「だいたいできる」と答える生徒が最も多い 2 落ち着いて安心して学校生活が「あまりできない」と答える生徒が最も多い 1 落ち着いて安心して学校生活が「できない」と答える生徒が最も多い | 3 | 年3回の対策委員会を実施した。途切れのない情報収集が図れるよう、調査回数を増やした。 | 83.7%の保護者が「学校は子供の居場所づくりに配慮している」と評価。昨年度比2.1%増。 | B | 毎月の生活アンケートの実施から対応までの流れを確立し、問題の早期発見、対応向上を図る。 |
| | | | 体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成 | 4 オリンピック・パラリンピック教育の継続と保育授業TTの実施、男女共習の段階的実施 | 3 | 4 体力テストで全学年が都標準以上 3 体力テストで2つの学年が都標準以上 2 体力テストで1つの学年が都標準以上 1 体力テストで全学年が都標準未満 | 2 | オリンピック・パラリンピック教育の成果を継続。部活動制限が緩和され、体力向上の機会が増えた。 | 64.4%の保護者が「学校の体力向上の取組に満足している」と評価。昨年度比0.4%増。 | B | 体育祭の内容を見直しを図る。部活動については機会確保と地域移行への適切な対応を図る。 |
| 健やかな体 | 心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。 | 保健指導の充実と生徒自らの健康な生活に向けた行動選択の促進 | 保健室経営の充実、生徒への保健・安全指導に関する情報発信と指導 | 4 保健だよりを活用した生徒指導を全学級で行った。 3 80%程度の学級が保健だよりを活用した生徒指導を行った。 2 70%程度の学級が保健だよりを活用した生徒指導を行った。 1 保健だよりを活用した生徒指導を行った学級は70%未満 | 2 | 4 食事や栄養の知識を「よく生かしている」と答えた生徒が最も多い 3 食事や栄養の知識を「生かしている」と答えた生徒が最も多い 2 食事や栄養の知識を「あまり生かしていない」と答えた生徒が最も多い 1 食事や栄養の知識を「生かしていない」と答えた生徒が最も多い | 3 | 学級活動における健康、安全に関する指導を計画的に実施。保健だよりの活用促進を図る。 | 59.4%の保護者が「子供は食事、栄養の知識を生かしている」と評価。昨年度比1.6%増。 | B | 学級担任の保健、安全に関する指導について研修を深める。保健だよりの活用を一層促進。 |
| | | | 安全教育・防災教育の推進と事故防止の観点からの点検活動の日常化 | 4 安全に関する点検を定期的に行っている。 3 安全に関する点検は必要を感じた時に実施している。 2 安全に関する点検を指示された時に実施している。 1 安全に関する点検を行うことはほとんどない。 | 3 | 4 安全や健康についての知識を「よく生かしている」と答えた生徒が最も多い 3 安全や健康についての知識を「生かしている」が最も多い 2 安全や健康についての知識を「あまり生かしていない」と答えた生徒が最も多い 1 安全や健康についての知識を「生かしていない」と答えた生徒が最も多い | 3 | 日頃からの安全点検徹底と自殺予防教育の推進を図る。安全な行動への主体性育成が課題。 | 73.8%の保護者が「子供は安全、健康の知識を生かしている」と評価。昨年度比4.4%増。 | B | 安全指導の年間指導計画の見直しと多様な場面を想定した避難訓練の実施。安全点検を徹底。 |
| | | 年間を通じた計画的な教育相談面談の実施と教師によるカウンセリングの充実 | 面談指導の計画的な実施、個の課題解決を支援する個別の会話・面談や言葉かけ | 4 定期面談・随時面談・QUのすべてを活用、実施した。 3 定期面談・随時面談を実施した。 2 定期面談のみ実施した。 1 定期面談・随時面談・QUのいずれも活用、実施できなかった。 | 3 | 4 「相談できる先生がいる」として「そう思う」と答えた保護者が最も多い 3 「相談できる先生がいる」として「だいたい思う」と答えた保護者が最も多い 2 「相談できる先生がいる」として「あまり思わない」と答えた保護者が最も多い 1 「相談できる先生がいる」として「思わない」と答えた保護者が最も多い | 3 | 生徒との面談はいずれの学年・学級でも回数を多く実施していた。QUの一層の活用を図る。 | 63.8%の保護者が「相談してみようと思う教員がいる」と評価。昨年度比3.2%減。 | B | 学級担任による生徒面談の他、SCや支援教室巡回教員との連携を促進。組織検討も課題。 |
| | | | キャリア教育の計画的な推進と適切な進路選択能力の育成 | 4 進路指導を計画的に行い、キャリアアルバムも活用した。 3 進路指導は計画的に行なったがキャリアアルバムは活用しなかった。 2 キャリアアルバムは活用したが、進路指導は計画的に行なうことができなかった。 1 進路指導は計画的に行なうことができなかった。キャリアアルバムも活用しなかった。 | 4 | 4 将来について考えることが「ある」生徒が最も多い 3 将来について考えることが「時々ある」生徒が最も多い 2 将来について考えることが「あまりない」生徒が最も多い 1 将来について考えることが「ない」生徒が最も多い | 4 | キャリアアルバムの活用は一定程度図られている。進路指導計画にその活用を位置付けていく。 | 55.2%の保護者が「子供は将来について考えている」と評価。昨年度比1.5%減。 | B | 小学校からのキャリアアルバムの適切な引継ぎと高等学校等への確実な情報提供が課題。 |
| 輝く未来 | 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。 | 生徒理解に基づいた個への配慮が必要な生徒への支援の充実 | 特別支援教室の適切な運営と活用、保護者との連携と合理的な配慮の推進 | 4 特別支援教室の趣旨を理解し、啓発と活用を図った。 3 特別支援教室の趣旨を理解し、活用を図った。 2 特別支援教室の趣旨は理解したが、活用できなかった。 1 特別支援教室の理解も活用も不十分だった。 | 3 | 4 「相談できる大人が二人以上いる」と答えた生徒が50%以上 3 「相談できる大人が二人以上、または、一人いる」と答えた生徒が70%以上 2 「相談できる大人が一人いる」と答えた生徒が50%以上 1 「相談できる大人はない」と答えた生徒が30%以上 | 4 | 特別支援教室との情報及び行動の連携が一層図られるようにしていく。 | | | 支援教室通室生徒の教育課程編成と個別指導計画作成段階からの学級担任の連携が課題。 |

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------------|------|-------------|--|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ○希望 ○創造 ○潤い | ビジョン | 【目指す学校像】 | ○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校 | | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒 | | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | ○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師 | | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 | |
|-------|---|-----------------------------------|---|------------------------------|----|-----------------------------|----|--|--|----|------------------------------------|--|
| 確かに学力 | 確かに学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。 | 問題解決型福島中方式4ステップ授業から深まりのある指導を実践する。 | 毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を定着する。 | 4 深まりにつながる4ステップ授業を行った | 3 | 4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上 | 3 | * 考える時間、振り返りの時間の確保で効果を感じる。 * 深めるための工夫が必要である。 | * 全教員が福島中方式を意識して実践しているので良い。 * 考える力をたくさん付けてほしい。 | B | 4ステップ授業の徹底と主体的な学びにつながる振り返りの工夫を行う。 | |
| | | | | 3 「深める」ための指導の工夫を行った | | 3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が70%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 「広げる」ための指導の工夫を行った | | 2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 個と集団を意識した授業を行った | | 1 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満 | | | | | | |
| | | 考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。 | 国語科を中心に、読む・書く時間を確保するとともに、発表活動の場面を増やす。 | 4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した | 3 | 4 考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上 | 3 | * ペアやグループでの発表活動が多い。 * 全体での発表は足りない。 | * 書くこと話すことをさらに増やしてほしい。 * 代表として話すことで意欲が高まる。 | B | 全教科で表現の機会を増やす。ただし、発表者が固定されないようにする。 | |
| | | | | 3 深く読み、表現する授業を7割以上行った | | 3 考え発表する体験が多いと感じた生徒が60%以上 | | | | | | |
| | | 主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。 | | 2 授業では自分の考えを書く | | 2 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 授業では読むこと書くことを大切にした | | 1 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満 | | | | | | |
| | | 主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。 | 授業のねらいと振り返りを基に、意欲をもって授業や家庭学習を主体的に取り組む。 | 4 毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った | 3 | 4 主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上 | 3 | * 授業のねらいを明らかにし、振り返りを行うことで主体的になる生徒が見られる。 * まだ主体性が見に付かない生徒が目立つ。 | * 振り返りを次につなげる力を養ってほしい。 * 目的とねらいの理解がされている確認すると良い。 | B | 振り返りの工夫により、主体的に取り組む態度を身に付けさせる。 | |
| | | | | 3 每時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った | | 3 主体的な学習習慣が定着した生徒が70%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 每時間ねらいを示し、振り返りを行った | | 2 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 授業のねらいと振り返りを時々行った | | 1 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満 | | | | | | |
| 豊かな心 | 自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。 | 考え方、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。 | ①全教員が道徳授業を行う。 ②全教科で内容項目に関連付けて指導する。 | 4 生徒が考え、気付きのある発問を工夫した | 3 | 4 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上 | 3 | * 発問の工夫で様々な考えが出てきた。 * 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が60%以上 | * 様々な環境で生活している人いることを学んでほしい。 * さらに自分を深める授業であってほしい。 | B | 生徒と一緒に考える道徳授業を、さらに展開する。校内研究授業を行う。 | |
| | | | | 3 教材解釈と教材の工夫を十分に行った | | 3 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が60%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 計画通りに22の内容項目を全て扱った | | 2 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 自分で教材理解をして年間35時間行った | | 1 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%未満 | | | | | | |
| | | 一人一人を尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。 | 傾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。 | 4 生徒育成サイクル指導の実践が定着した | 3 | 4 教員は良さを認め伸ばされると感じる生徒が90%以上 | 3 | * 傾聴・共感から良い人間関係を築いてほしい。 * 福中生が落ち着いている要因となっている。 | * 傾聴・共感から認めることが大切さを徹底する。最後は褒める。 | B | 傾聴・共感から認めることが大切さを徹底する。最後は褒める。 | |
| | | | | 3 傾聴、共感、認めるから助言につなげた | | 3 教員は良さを認め伸ばされると感じる生徒が80%以上 | | | | | | |
| | | 気持ちよい挨拶や返事によりお互いが快適に過ごせる人間関係を築く。 | | 2 傾聴、共感をし、認める努力をした | | 2 教員は良さを認め伸ばされると感じる生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 傾聴せずに、すぐ指導・説教をする | | 1 教員は良さを認め伸ばされると感じる生徒が50%未満 | | | | | | |
| | | 1年間健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。 | 一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的かつ計画的に運動習慣を身に付ける。 | 4 一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した | 2 | 4 運動を主体的に取り組む生徒が90%以上 | 2 | * 部活動では運動量を増やしたり内容を工夫しているが、主体的に取り組む生徒は半数程度。 | * 個別指導が必要である。福中ストレッチなど。 * 女子の動きが不活発に見える。 | C | 時間や場所に応じて、個人でできる簡単な運動を紹介する。 | |
| | | | | 3 体力向上のために個に応じた方法を指導した | | 3 運動を主体的に取り組む生徒が70%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 体力向上の意義と取組み方法を指導した | | 2 運動を主体的に取り組む生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 体力向上のための指導した | | 1 運動を主体的に取り組む生徒が50%未満 | | | | | | |
| 健やかな体 | 自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。 | 食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。 | 給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。 | 4 学級で食の大切さと残さず食べる指導を行った | 3 | 4 全校で1か月の平均残菜率が5%以下 | 3 | * 2学期後半の残菜率は6%前後で、食事指導の成果が表れている。 | * 食育指導、低残菜率を継続してほしい。 | B | 給食を残さない意識が高まっている。継続して指導する。 | |
| | | | | 3 学級で食の大切さと残さず食べる指導をした | | 3 全校で1か月の平均残菜率が8%以下 | | | | | | |
| | | | | 2 学級で残さず食べる指導に取り組んだ | | 2 全校で1か月の平均残菜率が10%以下 | | | | | | |
| | | | | 1 学級で食育指導を定期的に行った | | 1 全校で1か月の平均残菜率が10%前後 | | | | | | |
| | | SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。 | SNS学校ルールの定着及び家庭ルールの作成・定着を徹底する。 | 4 SNSルールの徹底を家庭に指導した | 2 | 4 SNSルールが定着した生徒が80%以上 | 2 | * ルールを作成している過程が約60%である。 * ルールを意識している生徒が多いが定着はしていない。 | * SNSの怖さについて引き続き指導が必要。 * 家庭の協力が必要。 | C | SNSルールが誰にでも覚えやすく、分かりやすいものにする。 | |
| | | | | 3 SNSルールを学級で指導・徹底した | | 3 SNSルールが定着した生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 SNS家庭ルールの作成を学級で指導した | | 2 SNSルールを意識している生徒が50%以上 | | | | | | |
| | | | | 1 SNS学校ルールを学級で指導した | | 1 SNSルールを意識している生徒が50%未満 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 輝く未来 | 家庭・地域との連携を深めて、将来の確かな夢をもち、夢を語れるような人格形成を図る。 | 家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。 | 学校・学年だよりの発行とホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。 | 4 毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した | 3 | 4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上 | 3 | * 毎月発行しているが、内容精選の意識を強める。 * HP更新の工夫が必要。 | * 地域とのつながりをより深めると良い。 * 生徒が関わるHPにすると良い。 | B | 保護者・地域にわかりやすい情報提供に努める。 | |
| | | | | 3 学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った | | 3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上 | | | | | | |
| | | | | 2 学年だよりは毎月1回以上発行した | | 2 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------|--|------|-------------|---|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒 | ビジョン | 【目指す学校像】 | ・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主・自立の精神を培うことができる学校・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校 | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒 | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | ・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|-----------------|--|---------------------|----|---------------------------------------|----|--|---------|--|--|
| 確かな学力 | 全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実 | 指導方法の工夫改善 | ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する | 4 自己評価4段階平均値3.7以上 | 4 | 4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 | 4 | ねらいの明示は、全教員ができている。本時の流れを示し、見通しをもたせてから授業を開始し、生徒に見通しをもたせる工夫もしている。導入ではICTを活用したり、前時までの復習をいたり各先生がそれぞれ工夫している。昨年度までの課題であった振り返りについては振り返りシートに記入するなど取り組む教員が増えている。振り返りシートの項目については単な | A | ねらいの明示や導入の工夫は、よくできているので維続的に行っていくとともに導入についてはいかに生徒に興味をもたせるか、主体的に考えさせるかを常に研究していく必要がある。振り返りについては着実に教員に浸透しているので、振り返りをタブレットで行う、感想などまらないように質問項目を精査する、振り返りをどう評価するか、など細かいところを考える。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.6以上 | | 3 80%~90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 | | ねらいの明示と振り返りシートの活用が進み始めている。 | | A | ねらいの明示や導入の工夫は、よくできているので維続的に行っていくとともに導入についてはいかに生徒に興味をもたせるか、主体的に考えさせるかを常に研究していく必要がある。振り返りについては着実に教員に浸透しているので、振り返りをタブレットで行う、感想などまらないように質問項目を精査する、振り返りをどう評価するか、など細かいところを考える。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値3.5以上 | | 2 70%~80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 | | ・自身の音声度を確認するのに「振り返り」はとても有効だと思う。ICTの活用と併用し、定着してほしい。 | | A | ねらいの明示や導入の工夫は、よくできているので維続的に行っていくとともに導入についてはいかに生徒に興味をもたせるか、主体的に考えさせるかを常に研究していく必要がある。振り返りについては着実に教員に浸透しているので、振り返りをタブレットで行う、感想などまらないように質問項目を精査する、振り返りをどう評価するか、など細かいところを考える。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値3.5未満 | | 1 70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 | | ・自己評価分析を見る限り、教員の努力を感じ事ができる。 | | A | ねらいの明示や導入の工夫は、よくできているので維続的に行っていくとともに導入についてはいかに生徒に興味をもたせるか、主体的に考えさせるかを常に研究していく必要がある。振り返りについては着実に教員に浸透しているので、振り返りをタブレットで行う、感想などまらないように質問項目を精査する、振り返りをどう評価するか、など細かいところを考える。 |
| | | 学習意欲の向上と家庭学習の充実 | 『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる | 4 自己評価4段階平均値3.7以上 | 3 | 4 70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 | 3 | 『家庭学習の記録』は多数の生徒で家庭学習定着の足がかりになっている。一方、毎時間や定期的に宿題を出している教科が多いが、提出状況が良くても、それが日々の家庭学習の定着には結びついていないようである。やはり生徒の主体的に家庭学習に取り組む意欲を引き出すことは容易ではない。 | B | 『宿題だからやる』にとどまっている生徒が多いので、宿題をやることをいかに主体的に学習に取り組む態度に導いていくかを考えていく。週1回のペースで小テストを実施し、家庭学習を促す教科もあったが、一定の効果はありそうである。知識の定着ができる生徒への別の対応も不可欠である。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.6以上 | | 3 50%~70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 | | ・小学校では学年+何分の家庭学習が目標とされている。アンケートを見ると少ないうるに思。タブレットを利用して家庭学習を定めさせる工夫があるといいと思うが、家庭のことで難い。 | | B | 『宿題だからやる』にとどまっている生徒が多いので、宿題をやることをいかに主体的に学習に取り組む態度に導いていくかを考えていく。週1回のペースで小テストを実施し、家庭学習を促す教科もあったが、一定の効果はありそうである。知識の定着ができる生徒への別の対応も不可欠である。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値3.5以上 | | 2 40%~50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 | | ・家庭学習定着の工夫が多く計画されている。効果はこれからある。 | | B | 『宿題だからやる』にとどまっている生徒が多いので、宿題をやることをいかに主体的に学習に取り組む態度に導いていくかを考えていく。週1回のペースで小テストを実施し、家庭学習を促す教科もあったが、一定の効果はありそうである。知識の定着ができる生徒への別の対応も不可欠である。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値3.5未満 | | 1 40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 | | ・家庭学習については教員の努力だけではなく、保護者の協力も必要と考える。 | | B | 『宿題だからやる』にとどまっている生徒が多いので、宿題をやることをいかに主体的に学習に取り組む態度に導いていくかを考えていく。週1回のペースで小テストを実施し、家庭学習を促す教科もあったが、一定の効果はありそうである。知識の定着ができる生徒への別の対応も不可欠である。 |
| 豊かな心 | 多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をして行動できる人格の育成を目指す指導の充実 | 正しく判断し行動できる力の育成 | 生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる | 4 自己評価4段階平均値3.4以上 | 4 | 4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 | 4 | ・生徒とのコミュニケーションを丁寧に行い、生徒が様々な視点で考えられるように思。タブレットを利用して家庭学習を定めさせる工夫があるといいと思うが、家庭のことで難い。 | A | より良い生活指導以前に日々の生徒の様子をよく観察し、未然に防止することがまず第一なので全教員で実践していく。道徳の授業では内容をいかに日常生活と結びつけかが課題である。生活指導も道徳も教員と生徒間がより良い関係を築き、生徒が話やすいやうな雰囲気を作ることが重要である。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.3以上 | | 3 80%~90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 | | ・家庭学習定着の工夫が多く計画されている。効果はこれからある。 | | A | より良い生活指導以前に日々の生徒の様子をよく観察し、未然に防止することがまず第一なので全教員で実践していく。道徳の授業では内容をいかに日常生活と結びつけかが課題である。生活指導も道徳も教員と生徒間がより良い関係を築き、生徒が話やすいやうな雰囲気を作ることが重要である。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値3.2以上 | | 2 70%~80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 | | ・道徳教育は難しい問題で生徒と会話を多くするとの良いと考える。よく実践した。 | | A | より良い生活指導以前に日々の生徒の様子をよく観察し、未然に防止することがまず第一なので全教員で実践していく。道徳の授業では内容をいかに日常生活と結びつけかが課題である。生活指導も道徳も教員と生徒間がより良い関係を築き、生徒が話やすいやうな雰囲気を作ることが重要である。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値3.2未満 | | 1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 | | ・生徒とのコミュニケーションを丁寧に行い、生徒が様々な視点で考えられるように思。タブレットを利用して家庭学習を定めさせる工夫があるといいと思うが、家庭のことで難い。 | | B | 自ら進んで考えを発信し、共有していく活動を積極的に取り入れていく。協働する楽しさや面白さを実感できるような課題や発問の工夫をする。 |
| | | 生徒の主体的活動の充実 | 教育活動に他者と関わるながら主体的に判断する内容を取り入れる | 4 自己評価4段階平均値3.6以上 | 4 | 4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 | 3 | ・議論・対話・雑談の違いが理解できないと対話は難しい。対話は行事、生徒会、委員会活動で実行に立つ。全員が何らかの形で3年に1回は経験してほしい。 | B | 自ら進んで考えを発信し、共有していく活動を積極的に取り入れていく。協働する楽しさや面白さを実感できるような課題や発問の工夫をする。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.5以上 | | 3 80%~90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 | | ・教員と生徒間では対話が少なくなってきており、中で対話の機会が多く取る努力は大事である。 | | B | 自ら進んで考えを発信し、共有していく活動を積極的に取り入れていく。協働する楽しさや面白さを実感できるような課題や発問の工夫をする。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値3.4以上 | | 2 70%~80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 | | ・道徳教育は難しい問題で生徒と会話を多くするとの良いと考える。よく実践した。 | | A | 基礎体力向上に向けての取組はできているので維続的に行っていく。体育の授業では、引き続き運動時間の確保とひとつひとつ活動の質を上げていくために、正しい姿勢や意識すべきポイントを伝えていく。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値3.4未満 | | 1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 | | ・体育の授業での時間確保と部活動の練習メニューを見直して体力の向上を実施する。 | | A | 基礎体力向上に向けての取組はできているので維続的に行っていく。体育の授業では、引き続き運動時間の確保とひとつひとつ活動の質を上げていくために、正しい姿勢や意識すべきポイントを伝えていく。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。 |
| 健やかな体 | 生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進 | 基礎体力の向上 | 体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる | 4 自己評価4段階平均値3.1以上 | 3 | 4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答 | 3 | ・体育の授業では運動時間を見直して部活動の練習メニューを見直して体力の向上を実施する。 | A | 基礎体力向上に向けての取組はできているので維続的に行っていく。体育の授業では、引き続き運動時間の確保とひとつひとつ活動の質を上げていくために、正しい姿勢や意識すべきポイントを伝えていく。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.0以上 | | 3 80%~90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 | | ・校内外で活動する機会が戻ってきたので、体育大会や部活動で十分な運動ができるよう指導してほしい。 | | A | 基礎体力向上に向けての取組はできているので維続的に行っていく。体育の授業では、引き続き運動時間の確保とひとつひとつ活動の質を上げていくために、正しい姿勢や意識すべきポイントを伝えていく。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値2.9以上 | | 2 70%~80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 | | ・コロナ禍の中、グラウンドで運動をする生徒の姿を目にすることが多くなつた。部活動も同じである。 | | A | 基礎体力向上に向けての取組はできているので維続的に行っていく。体育の授業では、引き続き運動時間の確保とひとつひとつ活動の質を上げていくために、正しい姿勢や意識すべきポイントを伝えていく。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値2.9未満 | | 1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 | | ・体育の授業での時間確保と部活動の練習メニューを見直して体力の向上を実施する。 | | B | 健康・安全に関する指導もできているので今後も維続的に行っていく。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるでのそのような生徒への対応や指導について学んでいく必要がある。 |
| | | 健康・安全に関する指導の充実 | 各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する | 4 自己評価4段階平均値3.7以上 | 4 | 4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 | 3 | ・学校生活で事故発生防止のための問題点の分析を行うとともにコロナ感染防止を通じての活動が重要である。 | B | 健康・安全に関する指導もできているので今後も維続的に行っていく。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるでのそのような生徒への対応や指導について学んでいく必要がある。 | |
| | | | | 3 自己評価4段階平均値3.6以上 | | 3 80%~90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 | | ・健康や安全に関する授業も充実させてほしい。 | | B | 健康・安全に関する指導もできているので今後も維続的に行っていく。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるでのそのような生徒への対応や指導について学んでいく必要がある。 |
| | | | | 2 自己評価4段階平均値3.5以上 | | 2 70%~80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 | | ・性についての授業も必要である。 | | B | 健康・安全に関する指導もできているので今後も維続的に行っていく。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるでのそのような生徒への対応や指導について学んでいく必要がある。 |
| | | | | 1 自己評価4段階平均値3.5未満 | | 1 70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 | | ・性についての授業も必要である。 | | B | 健康・安全に関する指導もできているので今後も維続的に行っていく。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるでのそのような生徒への対応や指導について学んでいく必要がある。 |
| 輝く未来 | 自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------------|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | ・美しい心 ・創造的な知性 ・たくましい体 | ビジョン | 【目指す学校像】 | 生徒にとって楽しく生きがいのある学びの場としての学校の実現 | | | | |
| | | | 【目指す児童・生徒像】 | ・ 正しい判断力、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神をもつ生徒 ・ 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度をもつ生徒 ・ 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を持つ生徒 | | | | |
| | | | 【目指す教師像】 | 一人一人を大切にする、一時間一時間大切にする、信頼される、清泉中を愛する、教師 | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----|-------------------------------------|----|--|---------|---|----------|
| 確かな学力 | 基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。 | 思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図る。 | 教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。 | 4 主題的な学びへの授業改善を十分行っている | 4 | 4 授業が分かりやすいことへの肯定的評価85%以上 | 3 | 授業の始めの、めあての提示と授業の終わりの振り返りをする教員が増えた。授業が分かりやすいと回答した生徒は85%であった。 | B | タブレットの効果的な利用と各教科で教材研究を深め、授業を改善する。 | |
| | | | | 3 主題的な学びへの授業改善を行っている | | 3 授業が分かりやすいことへの肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 授業改善はあまりできなかった | | 2 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 全くできなかった | | 1 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | 学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。 | | 4 学習習慣定着のための指導を十分行っている | 3 | 4 家庭学習の定着について肯定的評価85%以上 | 1 | 毎時間、定期的に宿題を出して、家庭学習の定着を目指していたが、家庭学習の習慣が身に付いていると回答した生徒は50%未満であった。 | B | 家庭学習が高まる指導法を工夫する。 | |
| | | | | 3 学習習慣定着のための指導を行っている | | 3 家庭学習の定着について肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 あまり行っていない | | 2 家庭学習の定着について肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | 観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図る。 | | 1 全く行っていない | | 1 家庭学習の定着について肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | | | 4 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、指導に十分生かしている | 3 | 4 授業に進んで参加していることの肯定的評価85%以上 | 3 | 3年生は、受験期ということもあるが前向きに授業に参加していた。また、全休でも授業に対して、すんで取り組んでいると回答した生徒は89%であった。 | B | 評価計画を明確に示し、見通しをもって学習が進められるようにする。 | |
| | | | | 3 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、指導に生かしている | | 3 授業に進んで参加していることの肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 適正に観点別学習状況の評価と説明を十分ではなかった | | 2 授業に進んで参加していることの肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 適正に観点別学習状況の評価と説明を行うことができなかった | | 1 授業に進んで参加していることの肯定的評価50%未満 | | | | | |
| 豊かな心 | 落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。 | 全教育活動を通じて生徒の自尊感情、自己肯定感を醸成する。 | 豊かな人間関係を育む学級経営 主題的、自立的生徒活動、学校行事の実践 | 4 自己肯定感を醸成する指導を十分行っている | 4 | 4 学校が楽しいことへの肯定的評価85%以上 | 3 | 生徒一人ひとりの良さを認め、生徒の心に寄り添う指導を心掛けた。楽しく学校生活を過ごしていますかと回答した生徒は89%であった。 | B | 教師と生徒との信頼関係を築き、自己肯定感を高める。 | |
| | | | | 3 自己肯定感を醸成する指導を行っている | | 3 学校が楽しいことへの肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 あまり行っていない | | 2 学校が楽しいことへの肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 全く行うことができなかった | | 1 学校が楽しいことへの肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | 道徳的価値と実践力の育成 | | 4 道徳的価値の評価を適宜、適正に行っている | 3 | 4 他者への思いやりの肯定的評価85%以上 | 3 | 自分の思いをしっかりと他者に伝えられる指導をしてきた。他者への思いやりの心をもって行動していると回答した生徒は91%であった。 | B | 特別な教科道徳の授業を中心に道徳教育を推進する。 | |
| | | | | 3 道徳的価値の評価を適宜行っている。 | | 3 他者への思いやりの肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | いじめ・不登校対策 | | 2 あまり行っていない | | 2 他者への思いやりの肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 行っていない | | 1 他者への思いやりの肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | 心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。 | 実態調査の実施 教育相談部会の機能化と関係機関との連携 校内対策会議の活用 | 4 毎月の実態アンケートを十分活用し組織対応を行っている | 4 | 4 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価85%以上 | 3 | 生徒一人ひとりの良さを認め、生徒の心に寄り添う指導を心掛けた。楽しく学校生活を過ごしていますかと回答した生徒は89%であった。 | B | 教師と生徒との信頼関係を築き、自己肯定感を高める。 | |
| | | | | 3 実態アンケートを活用している | | 3 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 あまり活用していない | | 2 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 活用していない | | 1 学校は落ち着いて安心して生活できていることへの肯定的評価50%未満 | | | | | |
| 健やかな体 | 心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。 | 体力向上と生涯にわたりスポーツに親しむ態度の育成 | 体育の授業、体育的行事や運動部活動を通してスポーツに親しむ。 | 4 体力向上について意図的計画的に指導を行い成果をあげている | 3 | 4 生徒の体力向上への肯定的評価85%以上 | 2 | 体育の授業では、体力づくりを継続的に行い、部活動では基礎体力の向上につなげた。運んだり体を動かしたりしていますかと回答した生徒は68%であった。 | B | 体力づくりの大切さを伝え、主体的に運動に取り組む態度を育成する。 | |
| | | | | 3 体力向上について計画的に指導を行っている | | 3 生徒の体力向上への肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 あまり行っていない | | 2 生徒の体力向上への肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | 保健・健康の増進 | | 1 行っていない | | 1 生徒の体力向上への肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | | | 4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている | 3 | 4 生徒の健康・安全についての肯定的評価85%以上 | 3 | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の理解を深める取り組みをしてきた。安全や健康について生活できていますかと回答した生徒は79%であった。 | B | 引き続き、感染症拡大防止に努める。また、食育指導の大切さを伝えよう。 | |
| | | | | 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている | | 3 生徒の健康・安全についての肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 指導が十分ではなかった | | 2 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 指導できなかった | | 1 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | 安全教育と防災教育の推進 | SNSルール作り 薬物乱用防止教室、安全教室の実施、自殺予防教育の取組 | 4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている | 3 | 4 生徒の健康・安全についての肯定的評価85%以上 | 3 | 昼休みや休み時間はできるだけ教室に居て、生徒の活動を見守った。健康・安全について生活の中で生かしていますかと回答した生徒は79%であった。 | B | 学校と家庭でSNSルールについて共通理解を深め、正しい使い方を身に付けさせる。 | |
| | | | | 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている | | 3 生徒の健康・安全についての肯定的評価70%以上 | | | | | |
| | | | | 2 指導が十分ではなかった | | 2 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 1 指導できなかった | | 1 生徒の健康・安全についての肯定的評価50%未満 | | | | | |
| 輝く未来 | 生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。 | 計画的キャリア教育の推進 | 発達段階に応じた進路指導と将来を見据えたキャリア教育 | 4 発達段階と生徒の実態に即した十分な指導を行い成果をあげている | 3 | 4 自らの個性・特性への理解の肯定的評価85%以上 | 3 | 生徒一人一人の個性の尊重を図ると共に、他者への思いの理解も深める取り組みを行ってきた。自分の個性・特性について肯定的な回答した生徒は82%であった。 | B | 自己理解を深め、自分の適性を理解し、自己実現に向けてのキャリア教育を推進する。 | |
| | | | | 3 発達段階と生徒の実態に即した指導を行っている | | 3 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%以上 | | | | | |
| | | | | 2 あまり行っていない | | 2 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%未満 | | | | | |
| | | 自己の学業生活や卒業後の進路について振り返り、進路選択能力を高める。 | | 1 行っていない | | 1 自らの個性・特性への理解の肯定的評価72%以上 | | | | | |
| | | | | 4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導により成果をあげている | 3 | 4 将来について考えることへの肯定的評価85%以上 | | | | | |

| | | | | |
|--------|---|-------------------------------------|------|---|
| 学校教育目標 | 勉学 よく考え正しく判断できる生徒 敬愛 人を尊厳し愛といつくしみのある生徒 至誠 誠実で責任感の強い生徒 健康 健康で心身ともにたくましい生徒 | 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】 | ビジョン | 生徒が「通つてよかった」、保護者が「通わせてよかった」、教職員が「勤めてよかった」と実感できる学校。 |
| | | | | 凡事徹底「はいじま」、当たり前のことが当たり前にできる生徒。 |
| | | | | すべての教育活動において、自他の生命尊重、人権尊重の心を育てることを基盤とした教育活動を実践する教師。 |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 | |
|-------|---|---|---|---|----|---|----|--|---------|---|----------|--|
| 確かな学力 | 基礎的・基本的な学習内容を着実に定着させるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現し、学力の向上を図る。 | 特別支援教育の視点に立った分かりやすい授業を実践する。 | 見通しをもたせる授業既習事項の反復確認学習の振り返り | 4 全教員が指導方法の工夫・改善を実践した | 3 | 4 90%以上の生徒が先生は授業を分かりやするために工夫をしていると回答 3 70%以上の生徒が先生は授業を分かりやするために工夫をしていると回答 2 50%以上の生徒が先生は授業を分かりやするために工夫をしていると回答 1 50%未満の生徒が先生は授業を分かりやするために工夫をしていると回答 | 3 | 学校の授業はとても分かりやすいと回答した生徒は全体の83%であった。 | B | 学習の振り返りの徹底。主体的に学習に取り組む態度を育む工夫と適切な評価の実施。 | | |
| | | | | 4 全教員が家庭学習の支援を行った | | 4 80%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組んでいると回答 3 60%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 2 40%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 1 40%未満の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答 | | 3年生では1日平均1時間以上学習していると回答した生徒が75%であった。1年生は37%、2年生は36%であった。 | | | | |
| 豊かな心 | 道徳教育の充実を図るとともに、人権尊重の精神に基づき、生徒の心の成長を促し、一人一人の変化に対応した行き届いた指導を展開する。 | いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応、再発防止の取組を、全教職員が徹底する。 | | 4 いじめアンケート(年3回) いじめ対策委員会の活用 | 4 | 4 全ての生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答 3 80%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答 2 60%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っている 1 60%未満の生徒が学校生活が楽しいと思っている | 3 | 学校生活が楽しいと回答した生徒は全体の91%であった。 | B | QUテストの結果等を生かした生徒指導の向上。全職員による組織的な対応の徹底。 | | |
| | | | | 4 生徒一人一人に寄り添い受け止める相談体制・連携体制を整える。 | | 4 80%以上の生徒が相談できる先生がいると回答 3 70%以上の生徒が相談できる先生がいると回答 2 60%以上の生徒が相談できる先生がいると回答 1 60%未満の生徒が相談できる先生がいると回答 | | 4 困ったことがあったら、相談してみようと思う大人がいると回答した生徒は、全体の81%であった。 | | | | |
| 健やかな体 | 基本的な生活習慣を定着させ、生徒一人一人の健康の保持増進及び体力の向上を図る。 | 家庭と連携し、規則正しい生活を確立させる。健康の保持を心がける生活態度を育成する。 | 学年・学級だよりの活用 保護者会や面談での協働体制の強化 | 4 全教員が家庭と連携して生徒の生活習慣の確立に取り組んだ | 3 | 4 全ての生徒が道徳科の授業が充実していると回答 3 80%以上の生徒が道徳科の授業が充実していると回答 2 60%以上の生徒が道徳科の授業が充実していると回答 1 60%未満の生徒が道徳科の授業が充実していると回答 | 3 | 道徳の授業が充実していると回答した生徒は、全体の82%であった。 | B | 教員相互の授業観察や研究授業の実施による、授業の質の向上。 | | |
| | | | | 4 思いやりの心や規範意識などの道徳性を着実に育む道徳教育を実現する。 | | 4 全教員が道徳科の指導と評価の工夫・改善に取り組んだ 3 90%以上の教員が道徳科の指導と評価の工夫・改善に取り組んだ 2 80%以上の教員が道徳科の指導と評価の工夫・改善に取り組んだ 1 80%未満の教員が道徳科の指導と評価の工夫・改善に取り組んだ | | 4 困ったことがあったら、相談してみようと思う大人がいると回答した生徒は、全体の81%であった。 | | | | |
| 輝く未来 | キャリア教育を充実させ、自分らしい生き方を実現する基盤となる資質・能力を育成する。 | 集団生活を通じて、よりよい生活や人間関係を築く基盤となる力の育成を図る。 | 学校行事、生徒会活動、学級活動の充実 部活動の奨励 | 4 全教員がキャリア教育の視点をもって計画的に教育活動を実施した | 3 | 4 90%以上の生徒が規則正しい生活を送っていると回答 3 70%以上の生徒が規則正しい生活を送っていると回答 2 50%以上の生徒が規則正しい生活を送っていると回答 1 50%未満の生徒が規則正しい生活を送っていると回答 | 2 | 規則正しい生活が送っていると回答した生徒は、全体の67%であった。 | C | 基本的生活習慣の定着に向けた指導の徹底。家庭との連携の強化。 | | |
| | | | | 4 教育活動を通じて、体力の向上や健康の保持増進を促進する。 | | 4 90%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 3 80%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 2 70%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 1 70%未満の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答 | | 2 学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていると回答した生徒は、全体の72%であった。 | | | | |
| | | | 外部人材等を活用した体験的な活動を充実させ、自己の在り方・生き方を見つめる態度を育む。 | 4 働く人の話を聞く会、職場体験、上級学校訪問等の内容の充実 | 3 | 4 全ての生徒が将来の生き方にについて、学校で考える機会があると回答 3 80%以上の生徒が将来の生き方にについて、学校で考える機会があると回答 2 60%以上の生徒が将来の生き方にについて、学校で考える機会があると回答 1 60%未満の生徒が将来の生き方にについて、学校で考える機会があると回答 | 3 | 自分の生活や周囲の人との関わりについて考える機会があつたと回答した生徒は、全体の82%であった。 | B | 全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的に設定。 | | |
| | | | | 4 自己の課題を改善し、よさを伸ばして、主体的に自己実現を図っていくうとする態度をはぐくむ | | 4 全ての生徒がキャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育を実施した 3 90%以上の教員がキャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育を実施した 2 80%以上の教員がキャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育を実施した 1 80%未満の教員がキャリア・パスポートを効果的に活用したキャリア教育を実施した | | 3 将来の生き方について考える機会があつたと回答した生徒は、全体の84%であった。 | | | | |
| | | | | 4 キャリア・パスポートの活用・充実 | | 4 全ての生徒がキャリア・パスポートを通じて自分を見つめることができたと回答 3 80%以上の生徒がキャリア・パスポートを通じて自分を見つめることができたと回答 2 60%以上の生徒がキャリア・パスポートを通じて自分を見つめることができたと回答 1 60%未満の生徒がキャリア・パスポートを通じて自分を見つめることができたと回答 | | 2 キャリア・パスポートを通じて自分を見つめることができたと回答した生徒は、全体の66%であった。 | | | | |

令和4年度

昭島市立多摩辺中学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

| | | |
|--------|--|---|
| 学校教育目標 | 進んで勉強しよう ～主体的に学習する生徒～ 思いやりのある人になろう ～思いやりのある生徒～ 進んで心身をきたえよう ～共に心身を鍛える生徒～ | ビジョン 【目指す学校像】 1 安心して楽しく活動できる学校 2 生きる力を育む学校 3 家庭・地域とのつながりを大切にする学校 【目指す児童・生徒像】 1 主体的に学習する生徒 2 思いやりのある生徒 3 共に心身を鍛える生徒 【目指す教師像】 1 生徒と正面から向き合える教師 2 豊かな人間性を備えた教師 3 学び続ける教師 |
| | | |
| | | |

| 領域 | 中期経営目標 (3年間) | 短期経営目標 (1年間) | 具体的方策 | 取組指標 | 評価 | 成果指標 | 評価 | 自己評価結果の分析 | 学校関係者評価 | 評価 | 次年度への改善策 |
|-------|-----------------|--------------------------------------|---|--|----|----------------------------------|----|--|---------|--|----------|
| 確かな学力 | 基礎・基本の定着 | 授業規律の確立 | 落ち着いた一日のスタートを切るための主体的な朝読書の取組 | 4 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%以上 | 4 | 4 朝読書で毎日、8:25には集中して取り組んだ70%以上 | 4 | 学校全体が静寂の中で、一人一人の生徒が朝読合に真剣に取り組んでいる。学級委員・図書委員が呼びかけ、生徒が主体的に取り組むことはとてもよい。 | A | 引き続き、生徒主体で授業規律の確立を図っていく。 | |
| | | | | 3 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した90%以上 | | 3 朝読書で毎日、8:25には集中して取り組んだ65%以上 | | 教員の意識が高くともよい。また、生徒会中心に2分前着席を取り組み出したことも続けてほしい。 | | 生活指導主任中心に教員チームとして取り組んでいく。 | |
| | | | | 2 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した85%以上 | | 2 朝読書で毎日、8:25には集中して取り組んだ60%以上 | | 始業チャイム終了までに、授業を開始する意識が教員に定着したこと、おのずと生徒のチャイム着席は徹底し、生徒会中心に2分前着席を取り組み出した。 | | | |
| | | | | 1 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した85%未満 | | 1 朝読書で毎日、8:25には集中して取り組んだ60%未満 | | 教員の意識が高くともよい。また、生徒会中心に2分前着席を取り組み出したことも続けてほしい。 | | | |
| | | 分かる授業、達成感・満足感のある授業の実践 | 教員は教室で始まりのチャイムを聞く実践、生徒は主体的に2分前チャイム着席を行う実践 | 4 チャイム終了までに授業開始した90%以上 | 4 | 4 2分前チャイム着席が、学期を通して守ることができた70%以上 | 4 | 授業の目標と流れの提示は徹底していきた。課題は5分間の振り返りの充実である。さらに授業改善を組織的に進める。 | B | 授業の目標と振り返りの一体化を充実させていく。 | |
| | | | | 3 チャイム終了までに授業開始した80%以上 | | 3 2分前チャイム着席が、学期を通して守ことができた65%以上 | | この調子で、さらに授業改善を組織的に進める。 | | | |
| | | | | 2 チャイム終了までに授業開始した70%以上 | | 2 2分前チャイム着席が、学期を通して守ることができた60%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 チャイム終了までに授業開始した70%未満 | | 1 2分前チャイム着席が、学期を通して守ることができた60%未満 | | 2 | | | |
| | 豊かな心 | 豊かな情操の育成 | 生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践 | 4 授業の目標・流れを示し、5分以上の振り返りを行った90%以上 | 3 | 4 授業の目標・一時間の流れを伝えてくれている。80%以上 | 2 | 授業の目標と流れの提示は徹底していきた。課題は5分間の振り返りの充実である。さらに授業改善を組織的に進める。 | B | 授業の目標と振り返りの一体化を充実させていく。 | |
| | | | | 3 授業の目標・流れを示し、5分以上の振り返りを行った85%以上 | | 3 授業の目標・一時間の流れを伝えてくれている。75%以上 | | この調子で、さらに授業改善を組織的に進める。 | | | |
| | | | | 2 授業の目標・流れを示し、5分以上の振り返りを行った80%以上 | | 2 授業の目標・一時間の流れを伝えてくれている。70%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 授業の目標・流れを示し、5分以上の振り返りを行った80%未満 | | 1 授業の目標・一時間の流れを伝えてくれている。70%未満 | | 2 | | | |
| | | | 一単位時間の学び量が豊富な授業の実践 | 4 生徒がわかった、できたという達成感・満足感がもてるよう授業を工夫した80%以上 | 2 | 4 達成感、満足感がある。75%以上 | 2 | 肯定的評価は90%だが、どちらかと言えば「はい」を除くと60%であった。ICTを活用したり、教材を工夫したりして授業改善に向け努力している。 | B | 引き続き、ICTを活用したり、教材を工夫したりして授業改善に向け努力してほしい。 | |
| | | | | 3 生徒がわかった、できたという達成感・満足感がもてるよう授業を工夫した75%以上 | | 3 達成感、満足感がある。70%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 2 生徒がわかった、できたという達成感・満足感がもてるよう授業を工夫した70%以上 | | 2 達成感、満足感がある。65%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 生徒がわかった、できたという達成感・満足感がもてるよう授業を工夫した70%未満 | | 1 達成感、満足感がある。65%未満 | | 2 | | | |
| 健やかな体 | 心と体の健康維持 | 規律を自ら守れる生徒の育成 | 教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践及び生徒会活動の活性化 | 4 生徒が主体的に挨拶できるよう指導を行った90%以上 | 3 | 4 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。75%以上 | 2 | 肯定的評価は84%だが、どちらかと言えば「はい」を除くと55%である。しかし、生徒観察からは、むしろ自ら挨拶をしようとする意識は高まってきた。 | B | 生徒と教員で連動して挨拶ができる学校を創造していく。 | |
| | | | | 3 生徒が主体的に挨拶できるよう指導を行った85%以上 | | 3 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。70%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 2 生徒が主体的に挨拶できるよう指導を行った80%以上 | | 2 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。65%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 生徒が主体的に挨拶できるよう指導を行った80%未満 | | 1 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。65%未満 | | 2 | | | |
| | | 主体的に行動できる生徒の育成 | 主体的な清掃活動の充実させるために委員会活動の活性化 | 4 清掃活動を生徒が主体的に取り組めるよう指導した90%以上 | 3 | 4 清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%以上 | 3 | 肯定的評価は92%だが、どちらかと言えば「はい」を除くと66%である。学校全体としては清掃が行き届いている。 | B | 引き続き、生徒主体で清掃活動の充実を図っていく。 | |
| | | | | 3 清掃活動を生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上 | | 3 清掃活動を、自ら進んできちんと行った65%以上 | | 3 | | | |
| | | | | 2 清掃活動を生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%以上 | | 2 清掃活動を、自ら進んできちんと行った60%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 清掃活動を生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%未満 | | 1 清掃活動を、自ら進んできちんと行った60%未満 | | 2 | | | |
| 輝く未来 | 自立できる生徒の育成 | 他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけて、解決していく生徒の育成 | 自ら健康管理の推進するため生徒会活動の活性化 | 4 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ90%以上 | 4 | 4 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上 | 3 | 肯定的評価は94%だが、どちらかと言えば「はい」を除くと63%である。学校全体で、新型コロナウイルス感染症防止に向けて取り組めたことが、感染症予防や健康に対する意識高揚につながった。 | B | 健康管理の推進するために、引き続き生徒会活動を活性化していく。 | |
| | | | | 3 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ85%以上 | | 3 自ら進んで日々の健康管理に努めた65%以上 | | 3 | | | |
| | | | | 2 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ80%以上 | | 2 自ら進んで日々の健康管理に努めた60%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ80%未満 | | 1 自ら進んで日々の健康管理に努めた60%未満 | | 2 | | | |
| | | | | 4 防災意識を高める指導を積極的に行なった90%以上 | | 4 防災訓練の始まりから終わまで真剣に行なった75%以上 | 4 | 行事・委員会・係活動などに、自ら進んで積極的に参加できた。75%以上 | B | 今年以上の目標設定を行い、防災意識を高めていく。 | |
| | | | 防災意識の高い生徒の育成 | 3 防災意識を高める指導を積極的に行なった85%以上 | | 3 防災訓練の始まりから終わまで真剣に行なった70%以上 | | 3 | | | |
| | | | | 2 防災意識を高める指導を積極的に行なった80%以上 | | 2 防災訓練の始まりから終わまで真剣に行なえた65%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 防災意識を高める指導を積極的に行なった80%未満 | | 1 防災訓練の始まりから終わまで真剣に行なえた65%未満 | | 1 | | | |
| | | 将来的生き方を考えられる生徒の育成 | 行事や学級活動を通して、円滑な人間関係の創造 | 4 生徒が主体的に取り組めるよう指導した90%以上 | 3 | 4 行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた75%以上 | 3 | 肯定的評価は94%だが、どちらかと言えば「はい」を除くと52%である。人の痛みがわかる生徒の育成にむけ道徳・学級活動を、引き続き充実させ、勇気づけ言葉を日常的に使える生徒を育成してほしい。 | B | 行事や学級活動を通して、引き続き円滑な人間関係を創造していく。 | |
| | | | | 3 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上 | | 3 行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた70%以上 | | 3 | | | |
| | | | | 2 生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%以上 | | 2 行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた65%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%未満 | | 1 行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた65%未満 | | 1 | | | |
| | | | | 4 キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話を聞く会等キャリア教育の充実 | | 4 将来の生き方についてに自ら進んで考えた75%以上 | 3 | 多くの内容が予定通り実施できた。自ら進路決定ができ、自立にむけて前向きに挑戦できる生徒を引き続き育成していく。 | B | キャリア教育全般を通して、自ら考え判断する場面を増やしていく。 | |
| | | | | 3 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上 | | 3 将来の生き方についてに自ら進んで考えた70%以上 | | 3 | | | |
| | | | | 2 生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%以上 | | 2 将来の生き方についてに自ら進んで考えた65%以上 | | 2 | | | |
| | | | | 1 生徒が主体的に取り組めるよう指導した80%未満 | | 1 将来の生き方についてに自ら進んで考えた65%未満 | | 1 | | | |